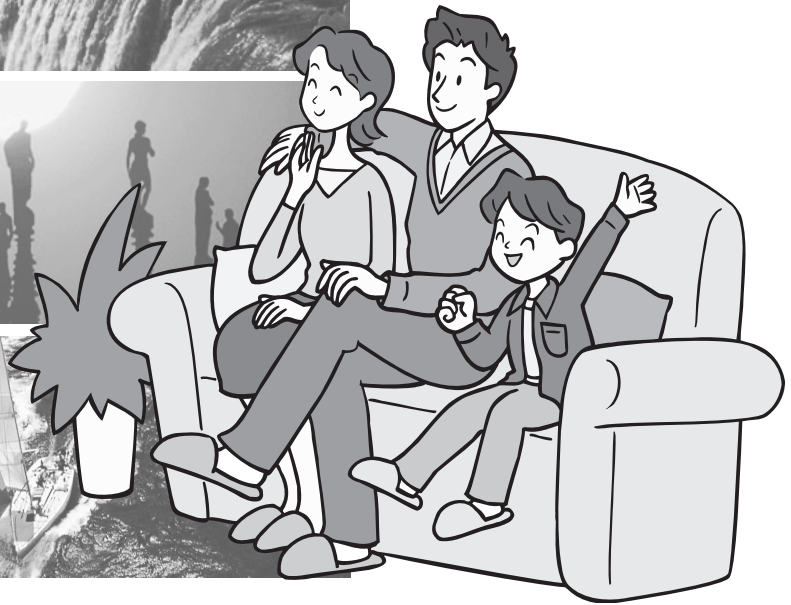
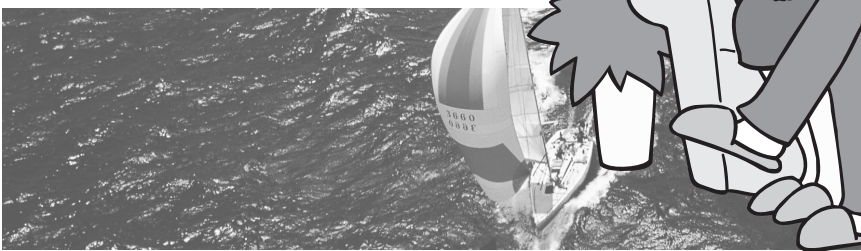
Panasonic®

取扱説明書

AV コントロールアンプ

品番 SU-XR700

このたびは AV コントロールアンプをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

保証書別添付

- この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
  特に「安全上のご注意」(→ 44、45 ページ)は、ご使用前に必ずお読みいただき、安全にお使いください。
  お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。
- 保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

上手に使って上手に節電

RQT8744-2S

ホームシアターが簡単に楽しめる！

接続

今までは…

何本ものケーブルが必要

SU-XR700では!!

HDMIケーブルで簡単接続！（➜7ページ）

※他の接続もできます。

設定

今までは…

スピーカーごとに手動で設定

SU-XR700では!!

ボタンを押すだけで、スピーカーの有無が設定できる！（➜10ページ）

再生

今までは…

リモコン操作でサラウンド再生

SU-XR700では!!

DVDもテレビも再生するだけで、サラウンドに！（➜12ページ）

VIERA Link

「VIERA Link（HDAVI Control）」対応のテレビ（VIERA）とDVDレコーダー（DIGA）を接続すると…

複数の操作が必要だったホームシアター

ワンタッチ操作でホームシアターが楽しめる！（➜13ページ）

もくじ

「安全上のご注意」を必ずお読みください。
(→44、45 ページ)

安全上のご注意

まず
準備
楽しむ
お好みで
ご参考

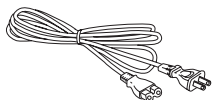
付属品

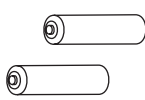
付属品を確認してください。

●●お願い●●

- 付属品の買い替えは、お買い上げの販売店にご相談ください。
- かっこ【　】内は、買い替え時の品番です。
（品番は2006年7月現在のものです。品番は変更されることがあります。）
- 電源コードは、本機専用ですので、他の機器には使用しないでください。また、他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。

付属品は、販売店でお買い求めいただけます。
松下グループのショッピングサイト「パナセンス」でもお買い求めいただけるものもあります。
詳しくは「パナセンス」のサイトをご確認ください。

http://www.sense.panasonic.co.jp/

☐ **電源コード（1 本）**
【K2CA2CB00002】

☐ **測定マイク（1 コ）**
【L0CBAB000123】

☐ **リモコン用乾電池**
（単 3 形：2 コ）

☐ **リモコン（1 コ）**
【EUR7662YP0】

各部のはたらき

本体

本体表示部

本体後面

S 映像端子
（➔ 15、19 ページ）

デジタル入力端子
（➔ 7、13 ～ 17、19 ページ）

HDMI 端子
（➔ 7、13 ページ）

映像端子
（➔ 14、17、19 ページ）

スピーカー端子
（➔ 9、20、21 ページ）

デジタルトランシーバー端子
（➔ 21 ページ）

音声端子
（➔ 14、17 ～ 19 ページ）

サブウーハー端子
（➔ 9 ページ）

コンポーネント端子
（➔ 16、19 ページ）

電源（➔ 9 ページ）

リモコン

アンプの電源ボタン

入力ソースの電源を「入/切」する/
入力ソースの切り換え/
リモコンの操作モードを
切り換える（➔ 37～40ページ）

DVD オーディオを 6 チャンネル
再生する （➔ 25 ページ）

チャンネル入力
テレビ（➔ 37 ページ）
DVD レコーダー
（➔ 39 ページ）
ビデオ（➔ 40 ページ）

チャンネル選択
テレビ（➔ 37 ページ）
DVD レコーダー（➔ 39 ページ）
ビデオ（➔ 40 ページ）

音量を調整（➔ 13、29 ページ）

トラックやチャプターを選ぶ
DVD レコーダー
（➔ 39 ページ）
DVD プレーヤー
（➔ 38 ページ）
トラックを選ぶ
CD プレーヤー
（➔ 40 ページ）

他の機器の操作
（➔ 13、37 ～ 40 ページ）

表示部を暗くする
（➔ 29 ページ）

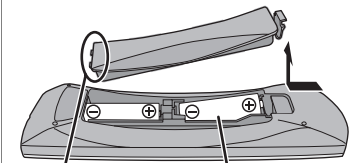
サブウーハーのレベルを
調整する（➔ 29 ページ）

サラウンド音声で聞く
（➔ 26 ～ 28 ページ）

一時的に音を消す（➔ 29 ページ）

スピーカーの音声出力を確認する
（➔ 11 ページ）/
測定マイクを使用して設定する
（➔ 22 ページ）/
スピーカーの音量調整をする
（➔ 29 ページ）

リモコンに乾電池を入れる

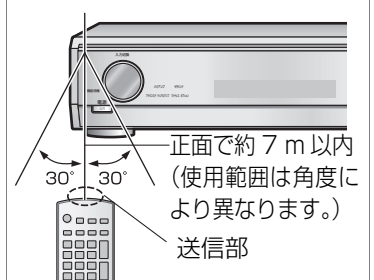
ふたのふちを押しながら開ける

⊕と⊖を確認！
（単 3 形）

ふたを閉めるときは、こちら側から先に入れる

リモコンの使いかた

リモコン受信部

正面で約 7 m 以内
（使用範囲は角度により異なります。）

送信部

使用上のお願い

- 受信部とリモコンの間に障害物を置かない。
- 受信部に直射日光やインバーター蛍光灯の強い光を当てない。
- 受信部と送信部のほこりに注意。

☞ **本体をラックに入れて使用する場合**

ラックのガラス扉の厚さや色などによって、リモコンの動作範囲が短くなることがあります。

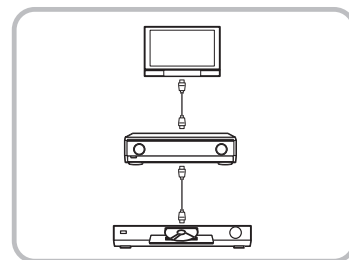
かんたんガイド

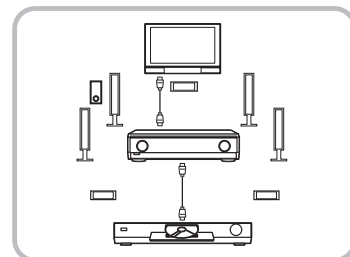
ホームシアターを楽しむための代表的な接続、設定、再生方法を説明しています。

- 接続するときは、各機器の電源を切ってください。
- 接続する各機器の説明書もご覧ください。
- 本機の上には物を載せないでください。

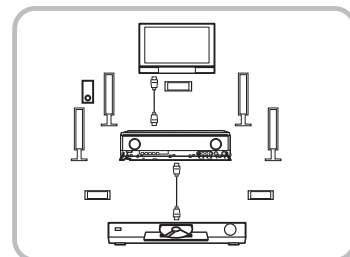
テレビ、DVD レコーダー、DVD プレーヤーを HDMI 接続する(→ 7 ページ)

HDMI 接続で、高画質と高音質が簡単に楽しめます。

HDMI 接続するにはテレビと DVD レコーダー(DVD プレーヤー)の両方に HDMI 端子が必要です。
HDMI 端子がない場合は：
S 映像端子に接続する場合(→ 15 ページ)
D 端子(コンポーネント端子)に接続する場合(→ 16 ページ)
S 映像端子、D 端子(コンポーネント端子)がない場合(→ 14 ページ)

スピーカーを接続する(→ 8 ページ)

スピーカーを設置、接続します。

スピーカーの有無の設定と確認(→ 10 ページ)

スピーカーの有無の設定が、自動で簡単にできます。

設定後は、テスト信号で、音声出力を確認します。

DVD やテレビを見る(→ 12 ページ)

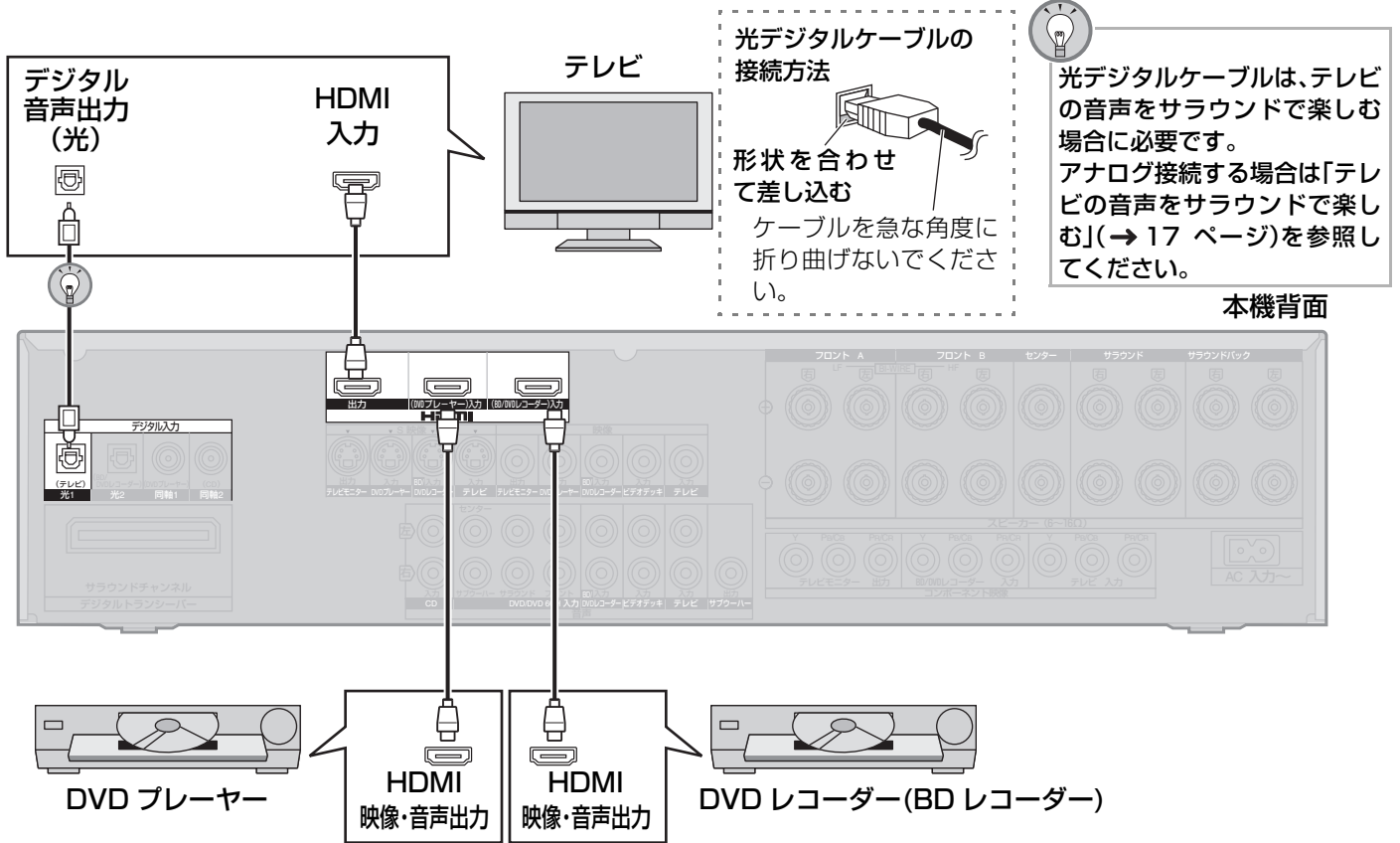
DVD がサラウンドで楽しめます。

テレビ、DVD レコーダー、DVD プレーヤーを HDMI 接続する

使用するケーブル

映像と音声	HDMI ケーブル(別売) [品番:RP-CDHG10(1.0 m)、RP-CDHG15(1.5 m)、RP-CDHG20(2.0 m)、RP-CDHG30(3.0 m)など] 当社製 HDMI ケーブルを推奨します。	音声	光デジタルケーブル(別売) [品番:RP-CA2010A(1.0 m)など] 角形

別売品の品番は、2006 年 7 月現在のものです。品番は変更されることがあります。

光デジタルケーブルは、テレビの音声をサラウンドで楽しむ場合に必要です。
アナログ接続する場合は「テレビの音声をサラウンドで楽しむ」(→ 17 ページ)を参照してください。

上記接続のまま、本機の電源を「切」にすると DVD の音声をテレビのスピーカーから聞くことができます。(スタンバイスルー機能)(深夜などに DVD をお楽しみいただくときに便利な機能です)

お知らせ

HDMI は High-Definition Multimedia Interface の略です。
- 1本のケーブルで映像と音声のデジタル信号が伝送できます。また、コントロール信号も伝送できます。
- 本機は CPPM※1 に対応していますので、DVD オーディオのマルチチャンネル音声がデジタル伝送できます。
  ※1 Content Protection for Prerecorded Mediaの略です。DVDオーディオのファイルコピーを防止する著作権保護技術です。
- 1125p※2(1080p)の映像を楽しむ場合は、映像劣化などの防止のため 5.0 m 以下の当社製ケーブルをおすすめします。
  ※2 1125p(1080p):1/60 秒ごとに 1125 本の走査線を同時に流すプログレッシブ(順次走査)方式です。
- HDMI 端子とデジタル端子(→ 14 ~ 17 ページ)の両方を接続している場合、HDMI の音声信号が優先されます。

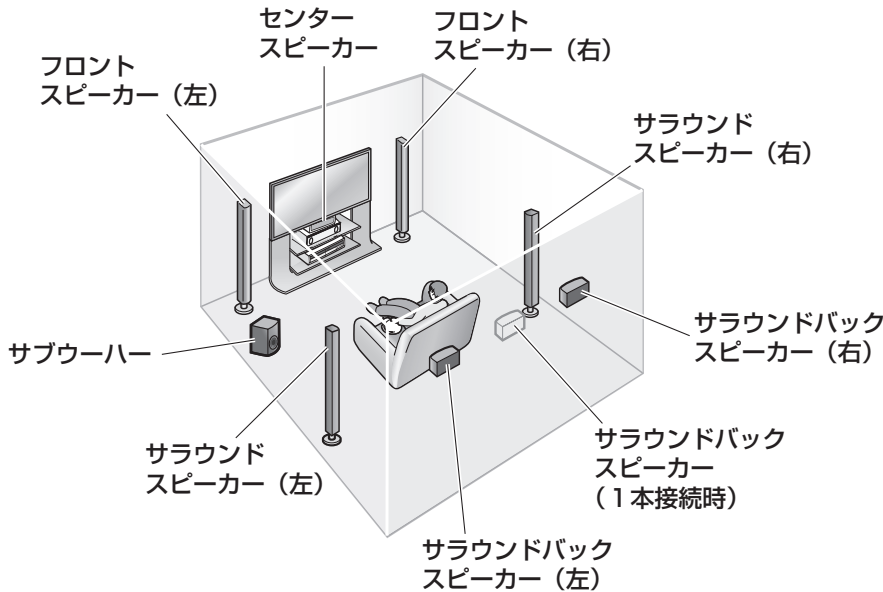
お持ちのテレビと DVD レコーダー、DVD プレーヤーに HDMI 端子がない場合は…

場合	参照
S 映像端子に接続する場合	15 ページの接続をご覧ください。
D 端子(コンポーネント端子)に接続する場合	16 ページの接続をご覧ください。
D 端子(コンポーネント端子)、S 映像端子がない場合	14 ページの接続をご覧ください。

かんたんガイドの「スピーカーを接続する」(→ 8 ページ)にお進みください。

スピーカーを接続する

視聴位置から各スピーカー(サブウーハーを除く)を同じ距離に設置するのが理想です。
同じ距離に設置できない場合は各スピーカーと視聴位置との距離を測り、**「距離の設定をする」**(→ 33ページ)を行うか、または、**「測定マイクを使って自動的にスピーカー設定をする」**(→ 22 ページ)を行ってください。

(配置列 : センター1本、フロント2本、サラウンド2本、サラウンドバック2本(または1本)、サブウーハー1本)

6.1 チャンネルソース (ドルビーデジタルサラウンド EX、DTS-ES) を再生するのに良い配置です。
2チャンネルや 5.1 チャンネルソースでは、ドルビープロロジックⅡx、NEO:6、SFC を使って、7.1(6.1)チャンネルが楽しめます。

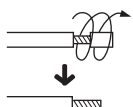
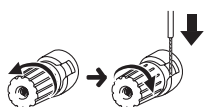
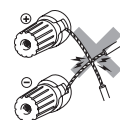
フロントスピーカー(左、右)
テレビの左右に置き、視聴位置で(実際に椅子に座るなどして)映像と音声の動きが合うように、位置や角度を調整してください。

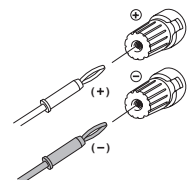
センタースピーカー
テレビの真上か真下に置き、視聴位置での耳の高さへまっすぐに向けてください。
設置しない場合は、センターの音声はフロントスピーカーに分配されて出力されます。

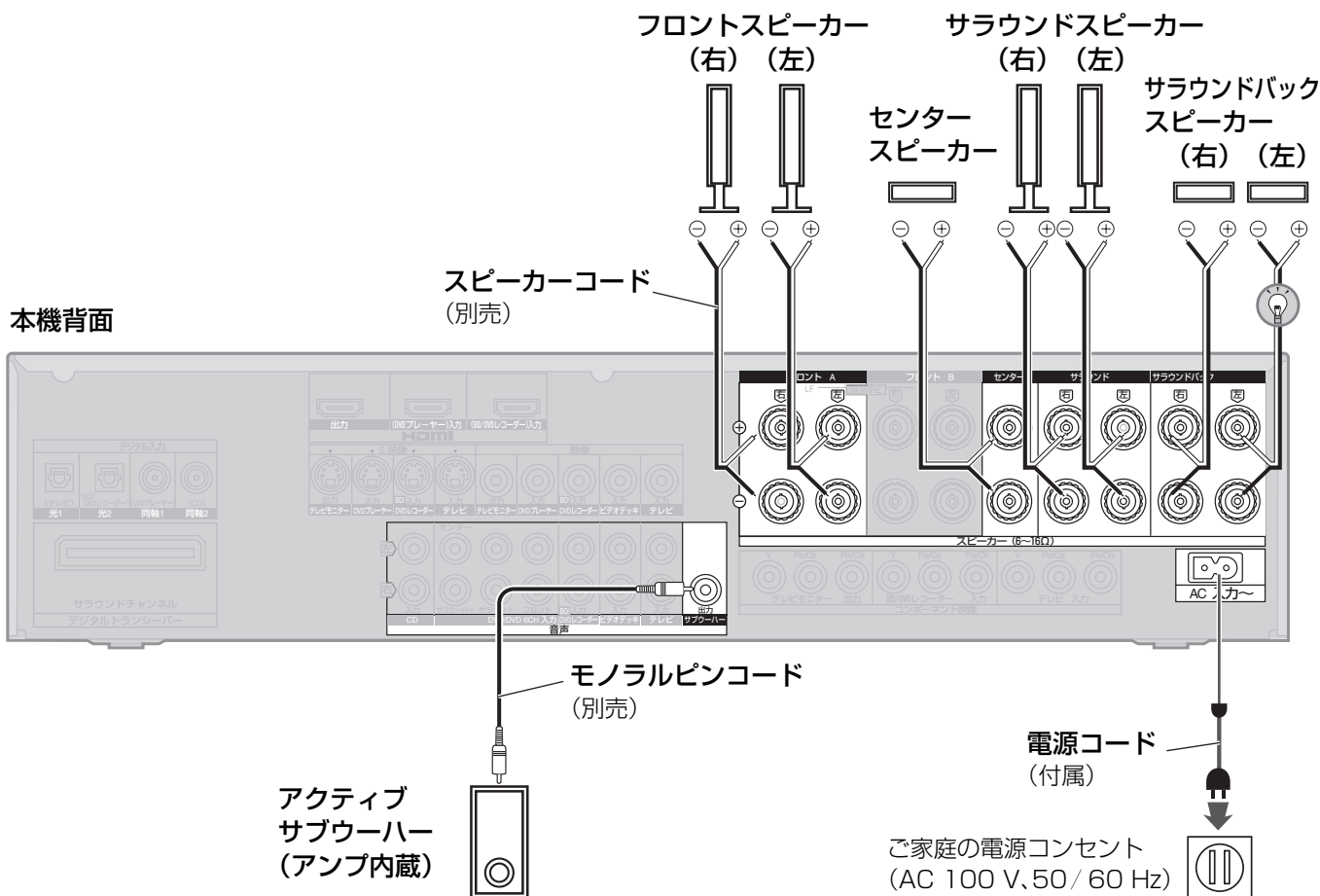
サラウンドスピーカー(左、右)
視聴位置の左右(横またはやや後ろ)に設置してください。
設置しない場合は、サラウンドの音声はフロントスピーカーに分配されて出力されます。

サラウンドバックスピーカー(左、右)
視聴位置の後ろに、耳の位置より 1 m ほど高く設置してください。
設置しない場合は、サラウンドバックの音声はサラウンドスピーカーまたは、フロントスピーカーに分配されて出力されます。

サブウーハー
テレビから遠く離れない程度の適当な位置に置いてください。

スピーカーコードの接続方法

スピーカーコードの先端のビニール部分は、ねじりながら抜き取ります。

●●お願い●●
- 左、右と⊕、⊖をご確認の上、正しく接続してください。誤った接続をすると故障の原因になります。
- スピーカーコードをショートさせないでください。回路が破損する恐れがあります。

バナナプラグ(市販)**の接続**

スピーカー端子を右に回してしっかり締めつけ、端子の穴にプラグを挿入してください。

スピーカーインピーダンス
各スピーカー：　6 ～ 16 Ω

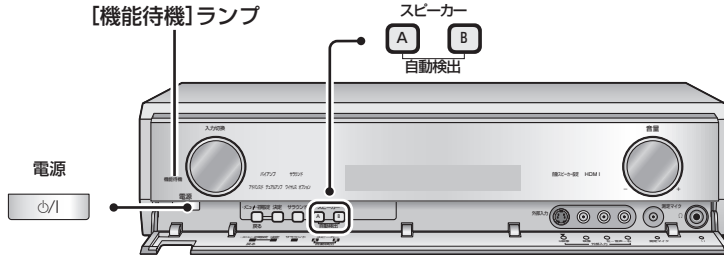
サラウンドバックスピーカーを１本のみ接続するときは、（左）側に接続してください。

電源コードは、他の接続がすべて終わってから、最後にコンセントへ接続してください。

- 電源プラグをコンセントに接続した状態で約0.7 Wの電力を消費しています。長期間使用しないときは抜いておいてください。
- 電源プラグを抜いても、本機の各種設定は記憶されます。

○○お知らせ○○

スピーカーを新しく接続し直したときには、必ず**「スピーカーの有無の設定と確認」**（→ 10ページ）または**「測定マイクを使って自動的にスピーカー設定をする」**（→ 22 ページ）を行ってください。

スピーカーの有無の設定と確認

各スピーカーが接続されているかどうか調べ、スピーカーの有無を自動的に設定します。

自動で検出する

1 本機の電源を入れる

電源 を押す

• 電源を入れると [機能待機] ランプが消灯します。

2 接続したスピーカーの有無を調べる

スピーカー A B 自動検出 を同時に押す

スピーカーの自動検出が始まります。

表示	説明
ECR S SB W	センター、サラウンド、サラウンドバック、サブウーハーを順に検出していきます。（フロントスピーカーは常に接続が「有」となります。）
7 SPEAKERS	検出されたスピーカーの数が表示されます。（サブウーハーを除く）
LCR S SB W	接続されているスピーカーが表示されます。
BD/DVR	自動検出が終了すると、元の表示に戻ります。

スピーカー表示：*L*：フロント（左）　*C*：センター　*R*：フロント（右）　*S*：サラウンド
SB：サラウンドバック　*W*：サブウーハー

検出結果により、警告表示が出ることがあります。（*WARNING*（ワーニング））

表示	説明
CHECK CONNECTION TO SBL SPEAKER	右のサラウンドバックスピーカーは検出できましたが、左のサラウンドバックスピーカーが検出できません。1 本のみ接続する場合は、左に接続してください。（➜ 9 ページ）
NEED TO CONNECT LS/RS SPEAKERS	左右のサラウンドスピーカーが検出できません。 サラウンドバックスピーカーを接続するときは、サラウンドスピーカーも接続してください。
CHECK CONNECTIONS TO LS/RS SPEAKERS	サラウンドスピーカーの左右どちらかが検出できません。接続を確認してください。

お知らせ

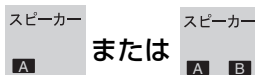
• スピーカー、ケーブルなどによっては、うまく検出できない場合があります。その場合は、手動でスピーカーの設定を行ってください。（➜ 33 ページ）
• 電源を切っても、設定は記憶されます。
• この操作をしない場合は、スピーカー7本とサブウーハー１本を接続している設定（初期設定）になります。
• スピーカーを新しく接続し直したときなどには、この操作をしてください。

スピーカーの音を確認する

1 スピーカーA を選ぶ

[スピーカー A] を押し、"A"を点灯させる

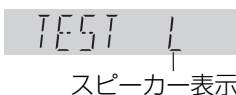
A のみ選択　A、B とも選択

スピーカー A または スピーカー A B

- スピーカーB のみ選択されているときは、テスト信号は出力されません。

2 テスト信号で音声出力を確認する

[−オート テスト] を押す

スピーカー表示

- フロントスピーカーを通常聞く音量にしてください。
- 約 2 秒間隔で下記の順にテスト信号が出力されます。

L → C → R → RS → SBR → SBL → LS → SW
または
L → C → R → RS → SB → LS → SW
（サラウンドバックスピーカー1 本接続時）

スピーカー表示：
L:フロント（左）　***C***:センター　***R***:フロント（右）
RS:サラウンド（右）　***LS***:サラウンド（左）
SBR:サラウンドバック（右）　***SBL***:サラウンドバック（左）
SB:サラウンドバック（1 本接続時）　***SW***:サブウーハー

3 テスト信号を止める

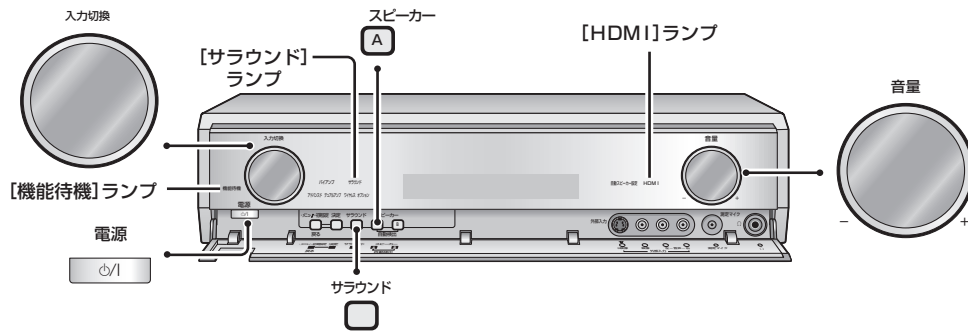
[−オート テスト] を押す

お知らせ

- 接続していないスピーカーからは、テスト信号は出力されません。
- 接続したスピーカーからテスト信号が出力されない場合は、もう一度接続を確認してからスピーカーの有無を自動で検出してください。（→ 9、10 ページ）
- バイワイヤー接続をしている場合は（→ 20 ページ）、[スピーカーA] または [スピーカーB] を押して、"A"と"B"を点灯させてください。 スピーカー BI-WIRE A B

もっと細かく設定をしたい場合は…

簡単にいろいろな設定を自動でしたい場合	付属の測定マイクを使うと、スピーカーの距離、極性、サイズ、低域フィルター、周波数特性、レベルの補正が自動で設定できます。（→ 22 ページ）
自分好みに設定したい場合	「スピーカーの音量調整をする」（→ 29 ページ） 「スピーカーの有無とサイズを設定する」（→ 33 ページ） 「距離の設定をする」（→ 33 ページ） 「低域フィルターの設定をする」（→ 33 ページ）

DVD やテレビを見る

準備 テレビの電源を入れ、本機を接続した入力（[**HDMI**] など）に切り換える。

1 本機の電源を入れる

電源 ⏻/I **を押す**

[サラウンド]ランプが点灯します。(初期設定)

• 電源を入れると [機能待機] ランプが消灯します。

2 スピーカーA を選ぶ

スピーカー A **を押し、"A"を点灯させる**

3 [入力切換] で"*BD/DVR*"、"*DVD*"または"*TV*"を選ぶ

を回す

BD/DVR

• 再生したい機器と違う名前の端子に接続した場合は、端子名の方を選んでください。

○○(お知らせ)○○

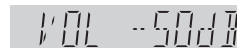
リモコンでも、入力を切り換えることができます。(➔ 5 ページ)

4 DVD を再生する またはテレビのチャンネルを選ぶ

• HDMI 接続で通信中は、[HDMI] ランプが点灯します。

5 音量を調整する

を回す

VOL -50dB

音量の範囲：

-- -- dB(最小)，***–79 dB*** ～ ***0 dB***(最大)

再生を楽しんだ後は

音量を下げてから[⏻/I 電源] を押し、電源を切ってください。

○○(お知らせ)○○

[サラウンド] を押すたびに、ステレオ再生とサラウンド再生が切り換わります。
(ステレオ再生時は、[サラウンド]ランプが消灯しています。)

CD など、他の機器を再生する場合は…

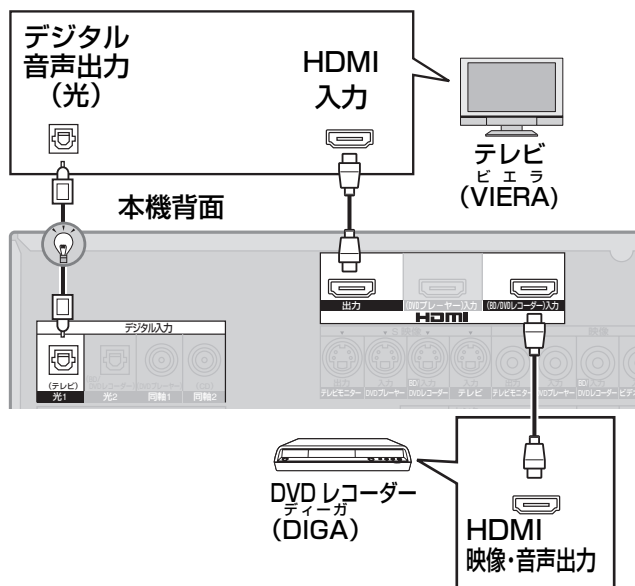
24 ページをご覧ください。

VIERA Link (HDAVI Control™) を使う

VIERA Link (HDAVI Control)とは

VIERA Link (HDAVI Control) 機能に対応した当社製テレビ(VIERA)、DVD レコーダー(DIGA)を HDMI ケーブルで接続することにより、テレビや DVD レコーダーとの連動操作が可能になる便利な機能です。各機器の詳しい操作については、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

準備

1. 本機と VIERA Link 機能に対応したテレビ(VIERA)、DVD レコーダー(DIGA)を HDMI ケーブルで接続する。
   (当社製 HDMI ケーブルを推奨します。HDMI 規格に準拠していないケーブルでは動作しません。)
2. テレビ(VIERA) のメニュー操作で VIERA Link 連動機能を働かせる設定にする。
3. 接続した機器を正しく認識させるために、下記の操作をしてください。
   ① すべての機器の電源を入れる。
   ② 一度、テレビ(VIERA) の電源を「切/入」する。
   ③ "*BD/DVR*" に入力を切り換えて、画像が正しく映るか確認する。
   (接続や設定を変更した場合にも、この操作をしてください。)

光デジタルケーブルは、テレビの音声をサラウンドで楽しむ場合に必要です。

ホームシアターをワンタッチ操作で楽しむ

リモコンを DVD レコーダー(DIGA)に向けて を押す

ボタンを押すだけで、以下の動作が自動で始まります。
1. DVD レコーダーの電源が「入」になり、選択されているドライブ(HDD/DVD など)から再生が始まります。
2. テレビの電源が「入」になり、テレビの入力が切り換わります。
3. 本機の電源が「入」になり、入力ソースが "*BD/DVR*" に切り換わった後、サラウンド再生が始まります。

音量を調整する場合 [+ 音量 −] を押す。

再生中は、テレビ(VIERA) のリモコンでも音量調整ができます。
(音量を調整すると、テレビ画面に本機の音量を調整中であることが表示されます。)

• DVDや録画したテレビ番組の始まりが途切れるような場合には、[⏮ スキップ] を押して、始めから再生してください。

お知らせ

• 本機の電源を「切」にすると、音声は自動的にテレビ(VIERA) のスピーカーから出力されます。
また、本機の電源を「入」にすると、DVD レコーダー(DIGA)の音声は、テレビ(VIERA) のスピーカーから出なくなり、本機と接続したスピーカーから出るようになります。
• 本機の電源が「切」のとき、テレビ(VIERA) で音声を AV アンプから出力する設定にすると、本機の電源が「入」になり、本機と接続したスピーカーから音が出るようになります。
• テレビ(VIERA)の電源を「切」にすると、本機の電源も「切」になります(本機の入力切換を "*CD*" にしている場合は除く)。
• DVD レコーダーを再生すると、本機の入力切換が自動で "*BD/DVR*" に切り換わります。
• 映像が音声よりも遅れている場合には、**「映像と音声を合わせる」(→ 36 ページ)**で設定を "*ON*" にしてください。
• VIERA Link を使用しない設定にする場合は 35 ページをご覧ください。

テレビからの音声を楽しむ場合
チャンネル選択などテレビの操作**(→ 37 ページ)**を行うと、本機の入力切換が "*TV*" に切り換わります。

HDAVI Control™ は商標です。

接続する

- 接続するときは、各機器の電源を切ってください。
- 接続する各機器の説明書もご覧ください。
- 本機の上には物を載せないでください。

映像・音声端子に接続する場合(テレビ、DVD レコーダー、DVD プレーヤー、ビデオデッキ)

使用するケーブル

映像	**ビデオコード**(別売)[品番:RP-CVP0G10(1.0 m)など]		
音声	**光デジタルケーブル**(別売) [品番:RP-CA2010A(1.0 m)など] 角形	**同軸デジタルケーブル**(市販)	**ステレオピンコード**(別売) [品番:RP-CAP3G10(1.0 m)など] (左)白 (右)赤

別売品の品番は、2006 年 7 月現在のものです。品番は変更されることがあります。

デジタル入力端子の設定は接続する機器に応じて変更できます。
例えば、DVDプレーヤーに光出力しかない場合でも「**デジタル入力端子を変更する**」(→ 35 **ページ**)で光 1 や光 2 に変更することで、DVDプレーヤーを接続できます。

- テレビの音声をサラウンドで楽しむには、さらに 17 ページの「**テレビの音声をサラウンドで楽しむ**」の接続をしてください。

テレビ

映像入力

本機背面

光デジタルケーブルの接続方法

形状を合わせて差し込む

ケーブルを急な角度に折り曲げないでください。

デジタル音声出力(同軸) / 映像出力

DVD プレーヤー

デジタル音声出力(光) / 映像出力

DVD レコーダー(BD レコーダー)

(右)(左)音声出力 / 映像出力

ビデオデッキ

お知らせ

- 入力された映像信号は同じタイプの出力端子からしか出力されません。
- BS デジタルチューナーや CS チューナーなどを接続する場合は、19 ページをご覧ください。

別売品は、販売店でお買い求めいただけます。
松下グループのショッピングサイト「パナセンス」
でもお買い求めいただけるものもあります。
詳しくは「パナセンス」のサイトをご確認ください。 http://www.sense.panasonic.co.jp/

S 映像・音声端子に接続する場合(テレビ、DVD レコーダー、DVD プレーヤー)

使用するケーブル

映像	S 映像コード(別売) [品番:RP-CVS0G10(1.0 m)など]	音声	光デジタルケーブル(別売) [品番:RP-CA2010A(1.0 m)など] 角形	同軸デジタルケーブル(市販)

別売品の品番は、2006 年 7 月現在のものです。品番は変更されることがあります。

デジタル入力端子の設定は接続する機器に応じて変更できます。
例えば、DVD プレーヤーに光出力しかない場合でも**「デジタル入力端子を変更する」(→ 35 ページ)**で光 1 や光 2 に変更することで、DVD プレーヤーを接続できます。

テレビ

● テレビの音声をサラウンドで楽しむには、さらに 17 ページの**「テレビの音声をサラウンドで楽しむ」**の接続をしてください。

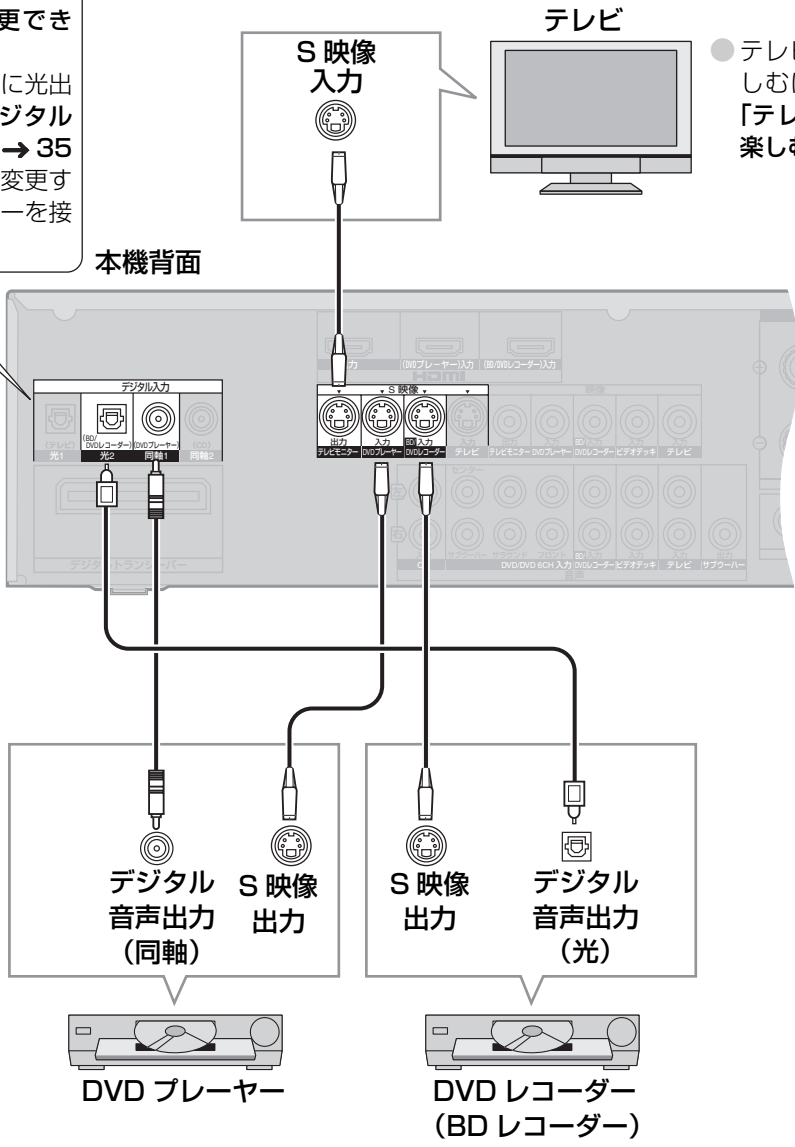
S 映像入力

本機背面

デジタル入力
光1 光2 同軸1 同軸2
S 映像

光デジタルケーブルの接続方法
形状を合わせて差し込む
ケーブルを急な角度に折り曲げないでください。

デジタル音声出力(同軸)　S 映像出力　S 映像出力　デジタル音声出力(光)

DVD プレーヤー　DVD レコーダー(BD レコーダー)

準備

接続する

お知らせ
• 入力された映像信号は同じタイプの出力端子からしか出力されません。
• BS デジタルチューナーや CS チューナーなどを接続する場合は、19 ページをご覧ください。

接続する（つづき）

- 接続するときは、各機器の電源を切ってください。
- 接続する各機器の説明書もご覧ください。
- 本機の上には物を載せないでください。

D 端子（コンポーネント端子）・音声端子に接続する場合（テレビ、DVD レコーダー）

D 端子（コンポーネント映像端子）は S 映像端子（→ 15 ページ）よりも忠実に色を再現できます。

使用するケーブル

映像	**D 端子ピンケーブル**（別売） ［品番：RP-CVCDG15（1.5 m）など］	**コンポーネント映像コード**（別売） ［品番：RP-CVPCG10（1.0 m）など］	音声	**光デジタルケーブル**（別売） ［品番：RP-CA2010A（1.0 m）など］ 角形

別売品の品番は、2006 年 7 月現在のものです。品番は変更されることがあります。

テレビ

D1～D5 映像入力

- テレビや DVD レコーダーのコンポーネント端子と接続する場合は、コンポーネント映像コード（別売）を使ってください。

- テレビの音声をサラウンドで楽しむには、さらに 17 ページの「**テレビの音声をサラウンドで楽しむ**」の接続をしてください。

デジタル入力端子の設定は接続する機器に応じて変更できます。（→ 35 ページ）

本機背面

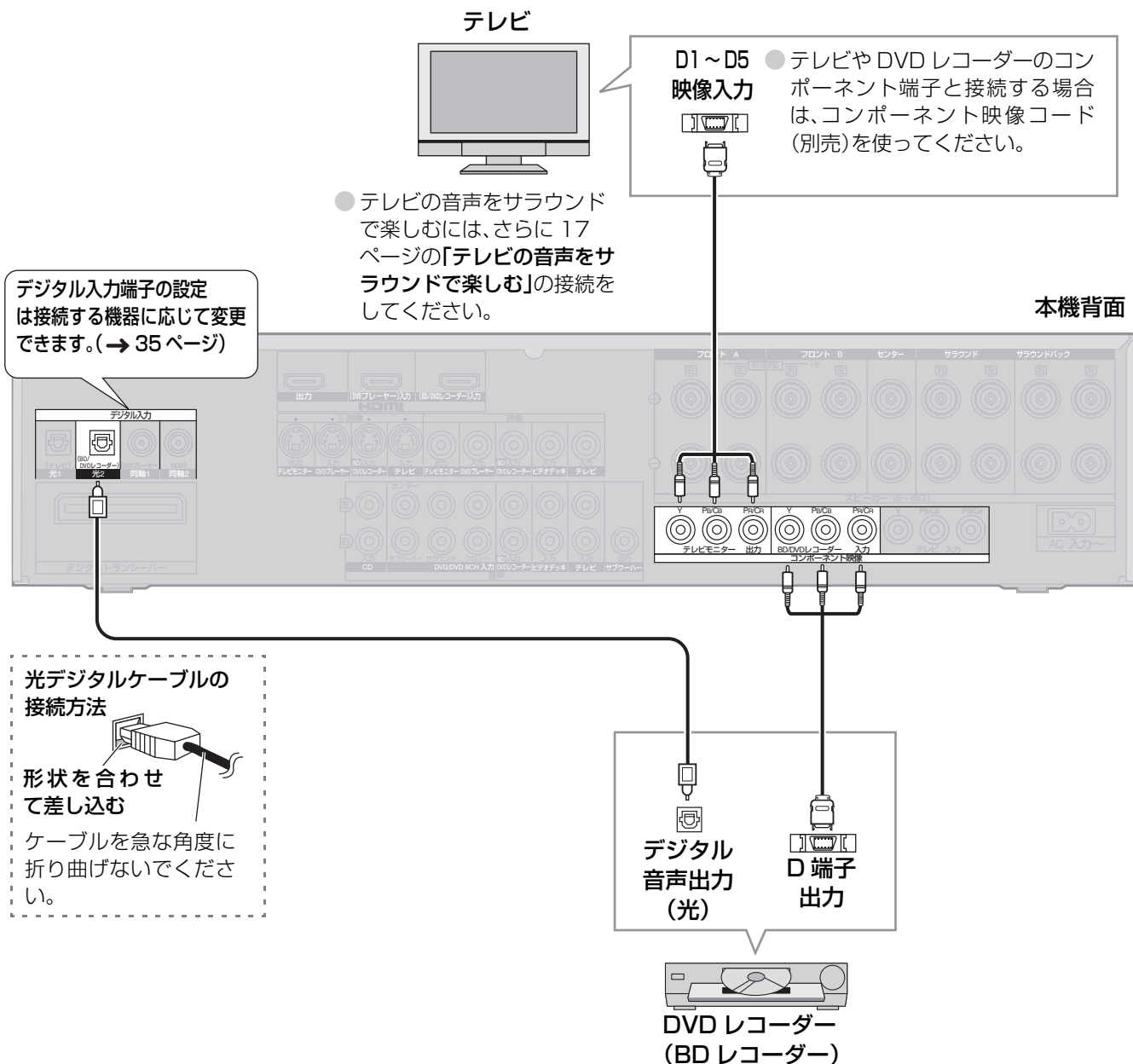
光デジタルケーブルの接続方法

形状を合わせて差し込む

ケーブルを急な角度に折り曲げないでください。

デジタル音声出力（光）

D 端子出力

DVD レコーダー（BD レコーダー）

コンポーネント映像端子について

- コンポーネント映像端子（色差映像端子）は、赤（PR／CR）、青（PB／CB）、輝度（Y）信号がそれぞれ独立して出力されるため、色をより忠実に再現します。本機のコンポーネント映像端子は Y、PB、PR または Y、CB、CR のコンポーネント映像に対応しています。

お知らせ

- 入力された映像信号は同じタイプの出力端子からしか出力されません。
- BS デジタルチューナーや CS チューナーなどを接続する場合は、19 ページをご覧ください。

別売品は、販売店でお買い求めいただけます。
松下グループのショッピングサイト「パナセンス」
でもお買い求めいただけるものもあります。
詳しくは「パナセンス」のサイトをご確認ください。 http://www.sense.panasonic.co.jp/

その他の接続

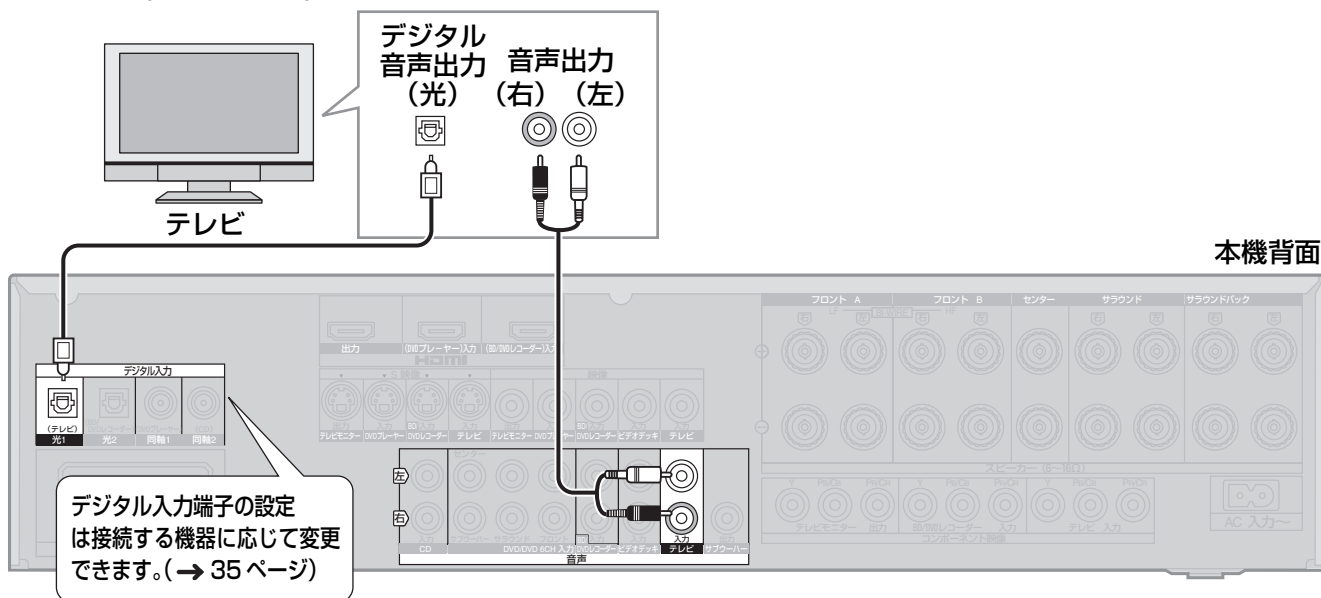
使用するケーブル

映像	ビデオコード(別売) [品番:RP-CVP0G10(1.0 m)など]	音声	光デジタルケーブル(別売) [品番:RP-CA2010A(1.0 m)など] 角形	ステレオピンコード(別売) [品番:RP-CAP3G10(1.0 m)など] (左)白 (右)赤

別売品の品番は、2006 年 7 月現在のものです。品番は変更されることがあります。

テレビの音声をサラウンドで楽しむ

14 ～ 16 ページの接続に、さらに追加して接続します。

- お持ちの機器やお好みに合わせて、デジタル音声出力(光)またはアナログ音声出力のいずれかに接続してください。
- 光デジタルケーブルは、テレビにデジタル出力端子がある場合に接続してください。BS デジタルチューナーなどを内蔵している場合は、本機で AAC(**→ 43 ページ**)の音声を楽しめます。

ビデオデッキ一体型 DVD レコーダーを接続する

映像入力

テレビ

本機背面

デジタル入力端子の設定は接続する機器に応じて変更できます。(→ 35 ページ)

光デジタルケーブルの接続方法

形状を合わせて差し込む

ケーブルを急な角度に折り曲げないでください。

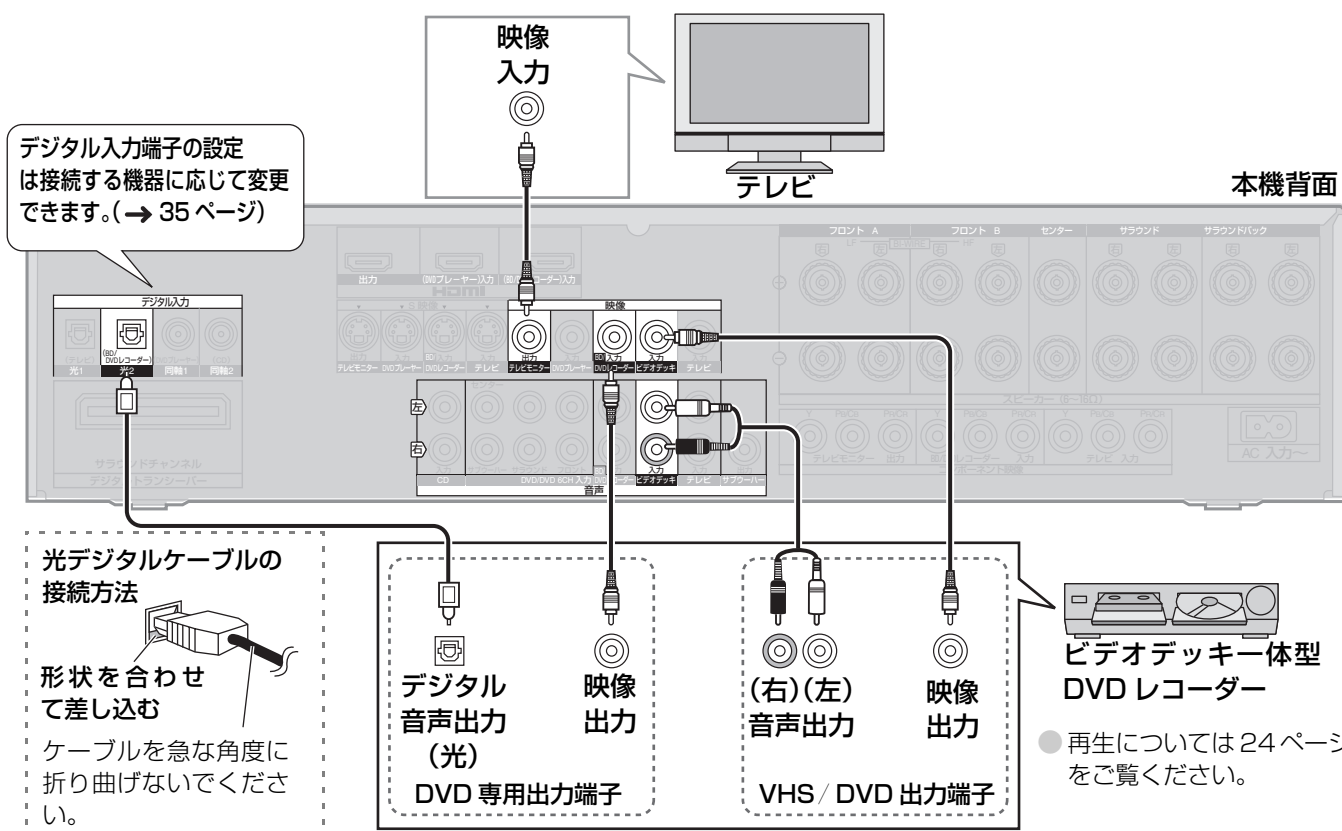
デジタル音声出力(光)　映像出力

DVD 専用出力端子

(右)(左)音声出力　映像出力

VHS/DVD 出力端子

ビデオデッキ一体型 DVD レコーダー

● 再生については 24 ページをご覧ください。

接続する（つづき）

- 接続するときは、各機器の電源を切ってください。
- 接続する各機器の説明書もご覧ください。
- 本機の上には物を載せないでください。

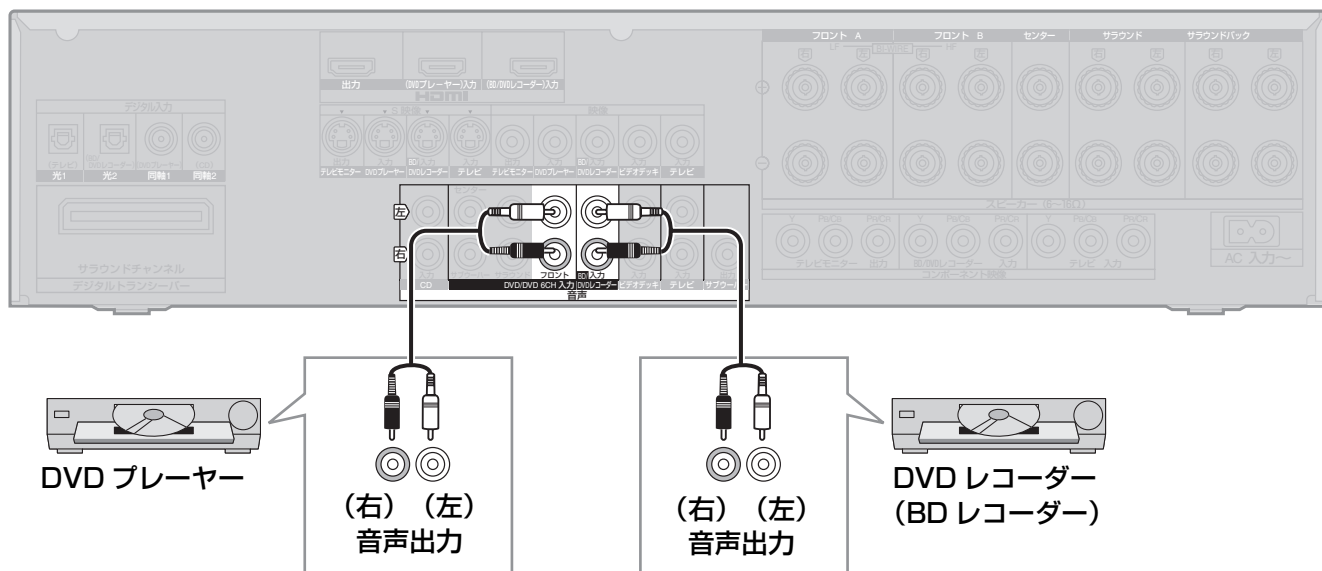
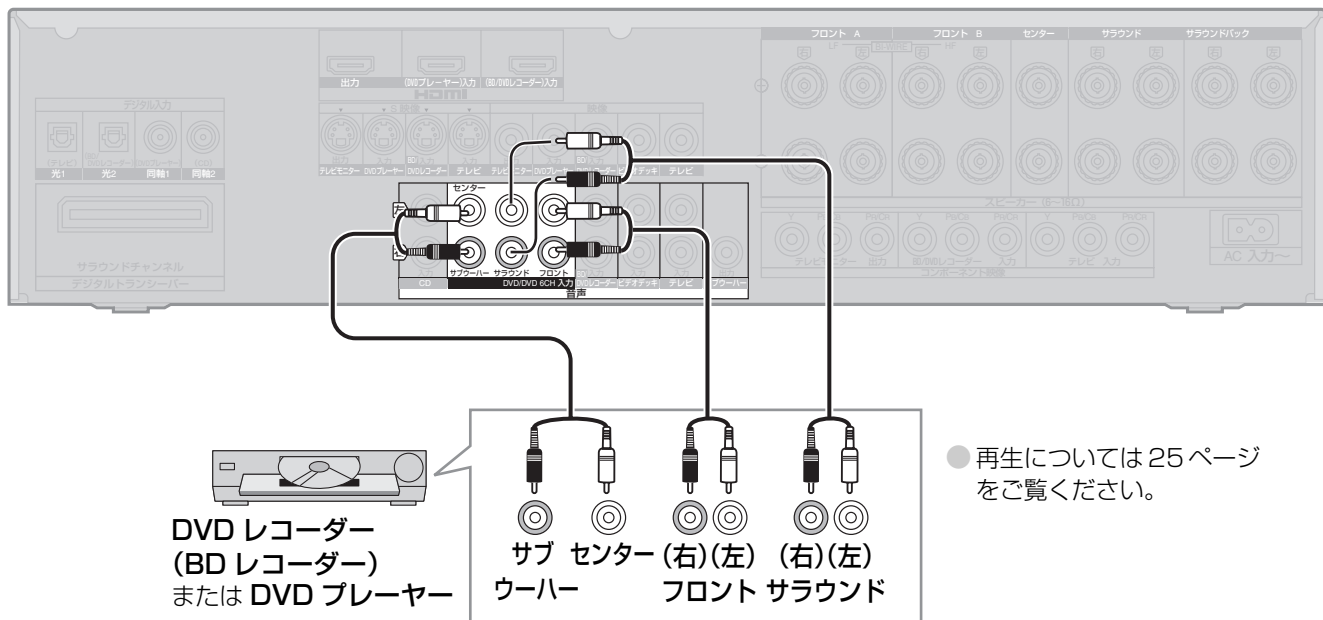
その他の接続（つづき）

使用するケーブル

映像	**ビデオコード**(別売) ［品番：RP-CVP0G10（1.0 m）など］	**S 映像コード**(別売) ［品番：RP-CVS0G10（1.0 m）など］	**D 端子ピンケーブル**（別売） ［品番：RP-CVCDG15（1.5 m）など］
音声	**光デジタルケーブル**(別売) ［品番：RP-CA2010A（1.0 m）など］ 角形	**同軸デジタルケーブル**(市販)	**ステレオピンコード**(別売) ［品番：RP-CAP3G10（1.0 m）など ］ （左）白 （右）赤

別売品の品番は、2006 年 7 月現在のものです。品番は変更されることがあります。

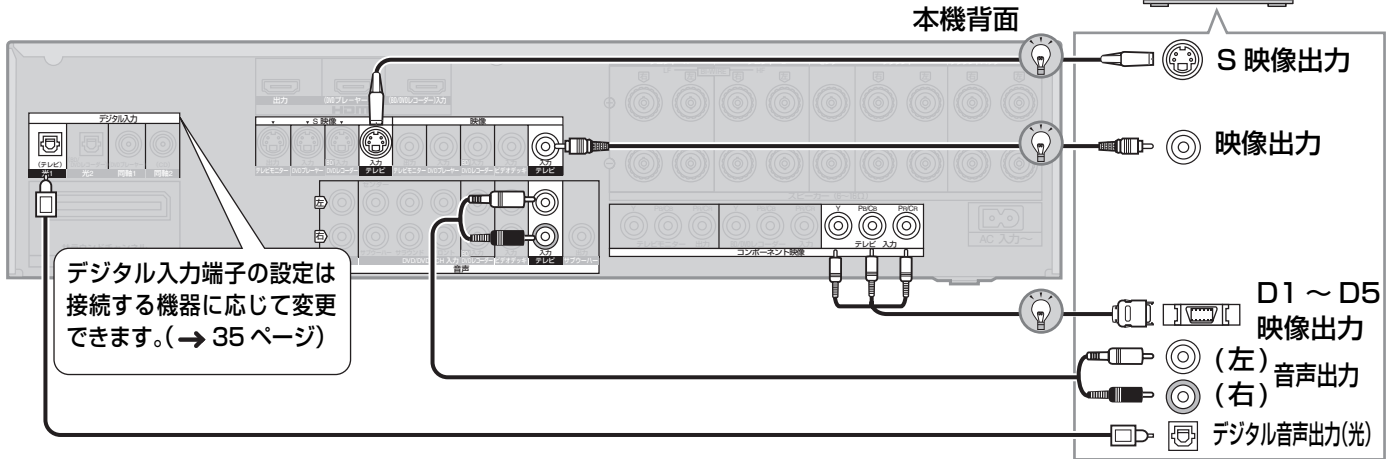
アナログ音声を楽しむ

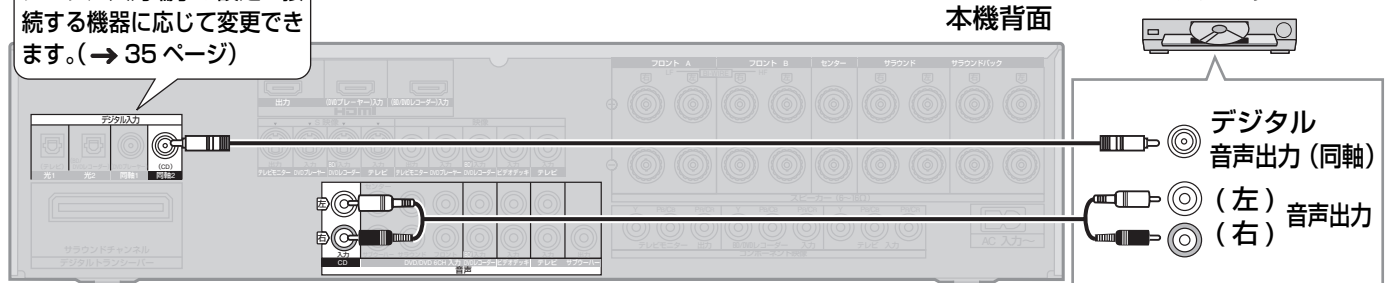
お持ちの機器やお好みに合わせて、アナログ接続をしてください。映像コードの接続については 14 ～ 16 ページをご覧ください。

DVD オーディオの高音質なアナログ音声を楽しむ（DVD アナログ 6CH 接続）

- 再生については 25 ページをご覧ください。

別売品は、販売店でお買い求めいただけます。
松下グループのショッピングサイト「パナセンス」
でもお買い求めいただけるものもあります。
詳しくは「パナセンス」のサイトをご確認ください。 http://www.sense.panasonic.co.jp/

BS デジタルチューナーや CS チューナーなどを接続する

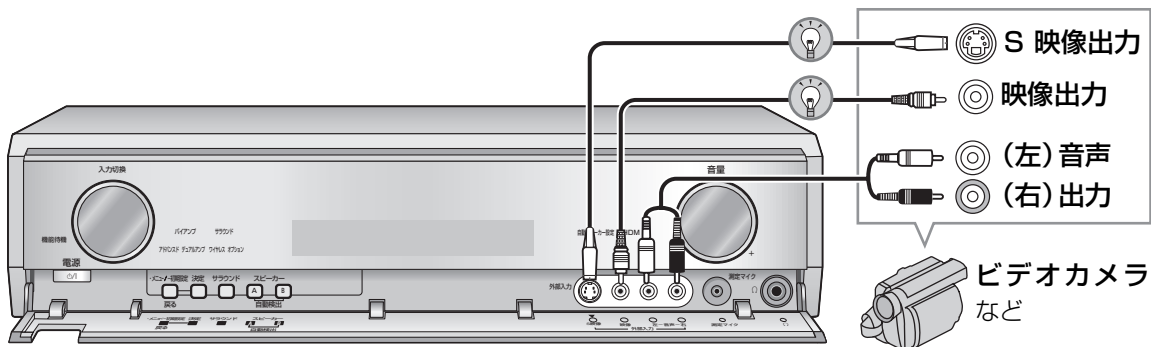
お持ちの機器やお好みに合わせて、デジタル音声出力 (光) またはアナログ音声出力のいずれかに接続してください。

- テレビと接続した映像ケーブルと同系統のケーブルを 1 つ選んで接続してください。
- テレビとの接続については、14 ～ 16 ページをご覧ください。

CD プレーヤーを接続する

お持ちの機器やお好みに合わせて、デジタル音声出力(同軸)またはアナログ音声出力のいずれかに接続してください。

ビデオカメラやゲーム機などを接続する

一時的に接続したい場合に便利です。

- テレビと接続した映像ケーブルと同系統のケーブルを 1 つ選んで接続してください。
- テレビとの接続については、14 ～ 16 ページをご覧ください。

準備

接続する (つづき)

接続する（つづき）

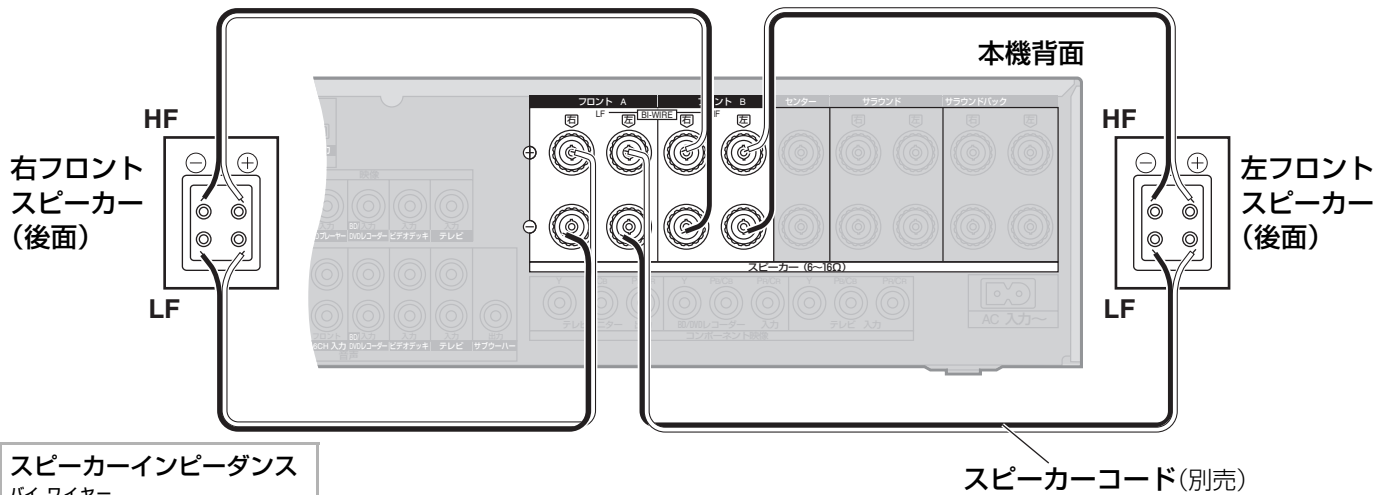
その他のスピーカーの接続

スピーカーを接続する

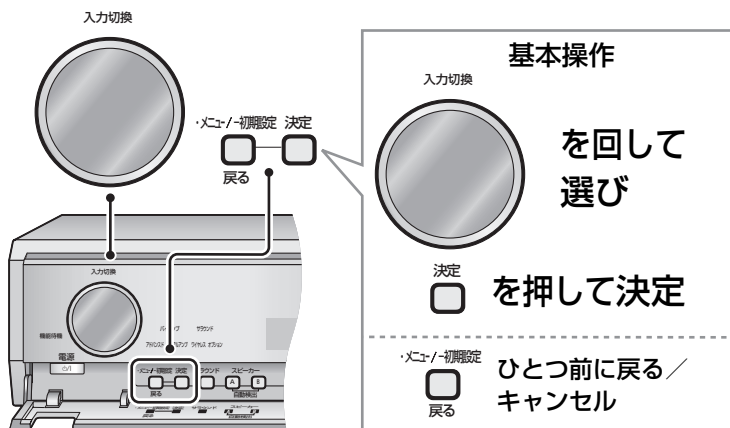
• お持ちの数に合わせてスピーカーを設置、接続するには 8、9 ページをご覧ください。

バイワイヤー対応のスピーカーを接続する

バイワイヤー対応のスピーカーとは、高周波域と低周波域で独立した接続端子があるスピーカーのことです。

• バイワイヤー接続すると、高周波域と低周波域で相互干渉がなくなり、高音質な再生が楽しめます。
• HF は高周波域、LF は低周波域のことです。
• フロントスピーカーをバイワイヤー接続した場合、必ず下記の「**バイワイヤー接続の設定をする**」をしてください。この設定をしないと、適切に音声が出力されません。

◯◯お知らせ◯◯

• 必ず HF をフロント B 端子側、LF をフロント A 端子側に接続してください。
• アナログ音声や2チャンネルのPCM信号を2チャンネル再生させると、高周波域と低周波域で別々のアンプを使う、より明瞭で高音質なバイアンプステレオサウンドを楽しむことができます。（→ 25 ページ）

バイワイヤー接続の設定をする

1 [- メニュー/ー初期設定、戻る] を約 2 秒間押したままにする

2 LR BI-WIRE **を選び、決定**

3 YES **を選び、決定**

YES:バイワイヤースピーカーを使用する
NO:バイワイヤースピーカーを使用しない
初期設定: ***NO***

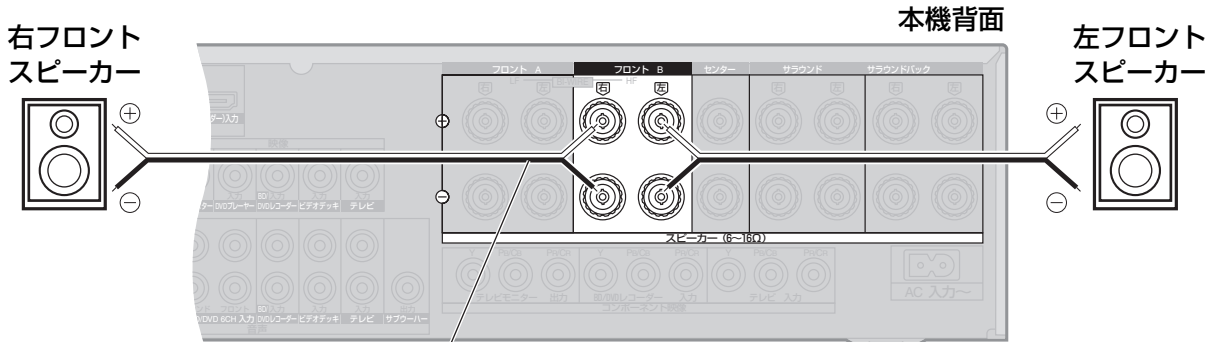
4 EXIT **を選び、決定**

◯◯お知らせ◯◯

さらに細かい設定をするときは、「**バイアンプの設定をする**」（→ 34 ページ）をご覧ください。

● 接続するときは、各機器の電源を切ってください。
● 接続する各機器の説明書もご覧ください。
● 本機の上には物を載せないでください。

2 組目のフロントスピーカーを接続する

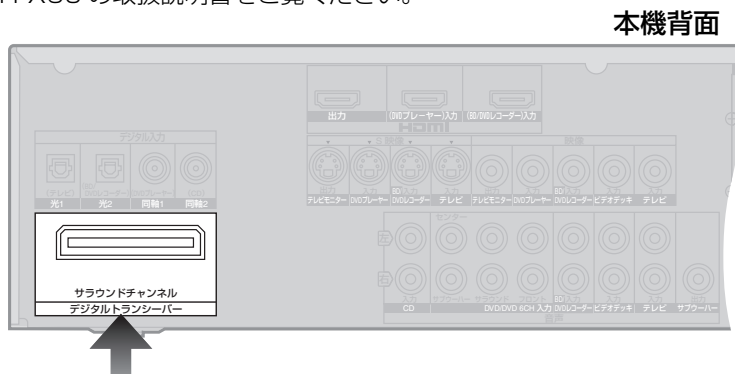
他の部屋に 2 組目のスピーカーを設置して、音楽を楽しみたいときなどに使用します。

スピーカーコード(別売)

スピーカーインピーダンス	
フロント A と B:	6 ～ 16 Ω
フロント B:	6 ～ 16 Ω

お知らせ

• フロント B スピーカーには**「測定マイクを使って自動的にスピーカー設定をする」(→ 22 ページ)**は使用できません。
• フロント B 端子に接続したスピーカーで音声を楽しむときは、スピーカーB を選択してください。**(→ 25 ページ)**
• スピーカーBのみ選択すると、2チャンネルの再生になります。サラウンドソースを再生すると、2チャンネルに集約して、左右フロントスピーカーから出力されます。**(2CH MIX(チャンネルミックス))**

SH-FX60 でサラウンドスピーカーをワイヤレスにする

本機では、当社製 SH-FX60(デジタルトランシーバーとワイヤレスシステムのセット:別売)を使用して、左右サラウンドスピーカーをワイヤレスで楽しめます。
本機のデジタルトランシーバー端子にデジタルトランシーバーを差し込み、サラウンドスピーカーを SH-FX60 ワイヤレスシステムに接続します。詳しくは、SH-FX60 の取扱説明書をご覧ください。

デジタルトランシーバーが挿入されているときは[ワイヤレスオプション] ランプが点灯します。
ただし、点灯せず、消灯または点滅する場合があります。(下記)

消灯:
• [サラウンド] ランプが消灯しているとき
• サラウンドスピーカーを**"*NONE*"**の設定にしているとき **(→ 33 ページ)**

点滅:
• 電波が途切れているとき(SH-FX60の電源が切れているとき)

お知らせ

• サラウンドスピーカーをワイヤレスにした場合の音声出力は、以下のようになります。
  - 最大で、5.1 チャンネル再生になります。サラウンドバックスピーカーは使用できません。サラウンドバックの音声は左右サラウンドスピーカーに分配されて出力されます。
  - 本機の左右サラウンド端子からは、音声は出力されません。([ワイヤレスオプション] ランプが点滅時も出力されません。)
• デジタルトランシーバーを抜き差しするときは、必ず本機の電源を切ってください。
• スピーカーの有無の自動検出をすると**(→ 10 ページ)**、サラウンドスピーカーが接続されている設定になります。

☞ **付属の測定マイクで自動的にスピーカーの設定をする場合**
先にデジタルトランシーバーを差し込んでください。設定後に差し込むと、設定が無効になります。
また、差し込んだ状態で設定したときは、デジタルトランシーバーを抜くと、設定が無効になります。

測定マイクを使って自動的にスピーカー設定をする

付属の測定マイクを使って視聴位置までの距離、接続したスピーカーの極性やサイズなどを測定し、補正します。

設定中はなるべく音を立てないようにしてください。話し声やエアコンの音、風の音などでエラーや誤った設定となる場合があります。また測定中は大きなテスト音が出ます。小さなお子様は部屋に入らないよう、ご配慮ください。

準備
- テレビは消音してください。
- サブウーハーを接続している場合は、必ず電源が「入」になっていることを確認してください。（サブウーハーによっては自動的に電源が切れている場合があります。）
  サブウーハーの音量は通常使う設定にしてください。

1 本機の電源を入れる

電源 ⏻/I を押す

- 電源を入れると [機能待機] ランプが消灯します。

2 スピーカーA を選ぶ

本体の

スピーカー A を押し、" A "を点灯させる

スピーカー A

3 測定マイクを端子に接続する

4 測定マイクを設置する

- 安定させるためにできるだけ平らな面に設置してください。
  例：視聴位置と同じ高さの水平な台やソファの背もたれの上など
- 視聴位置と高さを合わせてください。
- 最良な結果を得るには、カメラなどの三脚を使用してください。

カメラの三脚

5 設定を開始する

リモコンの

ーオート テスト を約 2 秒間押したままにする

- [自動スピーカー設定]ランプが点滅します。
- 終了すると"***COMPLETE***"が表示され、[自動スピーカー設定]ランプが点灯します。
- 終了までの時間は、5.1 チャンネルのシステムで約3分です。
- 設定中に他の操作をすると、設定が中止になります。
- "***COMPLETE***"表示後に他の操作をすると、通常動作に戻ります。ただし、設定は記憶されます。

☞ 途中で中止する場合
[ーオート、テスト]を押してください。

6 設定を終了する

リモコンの

ーオート テスト を押す

- 一瞬、電源が「切/入」して完了します。
- 操作を終えたら、測定マイクを取り外してください。

お知らせ

- 測定マイクは熱に弱い性質を持っています。直接日光を当てたり、本機の上に置かないようにしてください。
- 電源を切っても、設定は記憶されます。
- 測定マイク端子は、測定マイク専用です。カラオケ用マイクなどを接続しないでください。
- 自動スピーカー設定をくり返し行うと、音量が非常に上がる場合があります。自動スピーカー設定を動作させた後は、音量を確認してから再生してください。

スピーカーの種類や部屋の環境、設置状態により、同じスピーカーを接続していても、スピーカーのサイズや低域フィルターの設定などの判定が一致しない場合や実際のスピーカー単体での特性とは異なる判定を行う場合があります。
スピーカーからの音がおかしく感じられる場合には下記設定内容を確認し、望みの設定に手動で変更してください。
- 「スピーカーの有無とサイズを設定する」、「距離の設定をする」、「低域フィルターの設定をする」（➔ 33 ページ）

自動スピーカー設定では以下の設定が自動でできます。

STEP1 **距離(*DISTANCE*)**: 視聴位置から各スピーカーまでの距離を測定し、視聴位置に届く音の遅延時間を補正します。最大 15 m まで補正します。

極性(*POLARITY*): 各スピーカーの極性を調べ、間違っている場合は正しく補正します。極性を自動補正したくない場合は**「自動スピーカー設定を変更する」**の**「極性を自動補正しない設定にする」(→ 34 ページ)**で"***CHECK NO***"に設定してから操作を開始してください。

STEP2 **周波数特性補正(*SIZE/FREQUENCY*)**: スピーカーの特性(サイズや低域フィルターの設定)を含め、部屋の音響特性を測定し、補正します。

STEP3 **レベル(*LEVEL*)**: 各スピーカーの音量出力レベルを調べ、調整します。

エラーメッセージが出た場合は…

以下のエラーメッセージが表示された場合は、[−オート、テスト]を押して一度終了し、再度設定をやり直してください。

表示	原因	対策
CONNECT MIC	測定マイクが接続されていません。	測定マイクを正しく接続してください。
NO SIGNAL	測定マイクがテスト音を検出できません。	測定マイクが正しく設置されているか確認してください。
NOISY	騒音が大きすぎて測定できません。	静かな時間帯に再度行ってください。
		エアコンなど、騒音を発する機器の電源を切ってください。
MEASURING ERROR	スピーカーまでの距離が遠すぎる。または、原因の特定できないエラーが発生しました。	スピーカーの設置場所を確認してください。また、再度、測定をやり直してください。
CHECK CONNECTION TO SBL SPEAKER	右のサラウンドバックスピーカーは検出できましたが、左のサラウンドバックスピーカーが検出できません。	1本のみ接続する場合は、左に接続してください。
		左側のサラウンドバックスピーカーの接続を確認してください。
NEED TO CONNECT LS/RS SPEAKERS	サラウンドバックスピーカーが検出されましたが、左右のサラウンドスピーカーが検出できません。	サラウンドバックスピーカーを接続するときは、サラウンドスピーカーも接続してください。
CHECK CONNECTIONS TO LS/RS SPEAKERS	サラウンドスピーカーの左右どちらか、または両方が検出できません。	接続を確認してください。
CHECK CONNECTIONS TO L/R SPEAKERS	フロントスピーカーの左右どちらか、または両方が検出できません。	接続を確認してください。
LOW SIGNAL	スピーカーから出る計測音が小さいため、正しくマイクで測定できません。	マイクの設置場所を変更してください。(高さや方向など)
		スピーカーのまわりに、計測音をさえぎるような障害物がないか確認してください。
		サブウーハーの音量を通常使う設定にしてください。

お知らせ

- スピーカーの自動検出のみ行うこともできます。(→ 10 ページ)
- スピーカーの配置や方向などの条件により、正しく設定されない場合があります。
- 低域フィルターの設定は、サイズを SMALL と判定したスピーカーで、1 番低い周波数まで出せるスピーカーの周波数に設定されます。
- 左右のスピーカーのサイズが違う場合は両方とも SMALL に設定されます。
- サラウンドスピーカーとサラウンドバックスピーカーのサイズが違う場合は、すべて SMALL に設定されます。
- サブウーハーを接続せずに自動スピーカー設定を実行すると、左右フロントスピーカーのサイズが SMALL でも、LARGE に設定されます。
- サブウーハーでは、接続の有無の設定およびレベル調整ができます。
- **「バイワイヤー接続の設定をする」(→ 20 ページ)**で"***YES***"に設定している場合、左右フロントスピーカーの極性の検出と補正はされません。
- 自動スピーカー設定動作中は、VIERA(ビエラ) Link(リンク) 機能**(→ 13 ページ)**は働きません。
- 消音中**(→ 29 ページ)**は、自動スピーカー設定機能は使用できません。
- 距離が 15 m の範囲を超えた場合は、15 m として設定され、**「距離の設定をする」(→ 33 ページ)**で"***OVER***"と表示されます。
- 極性を自動補正したスピーカーには**「距離の設定をする」(→ 33 ページ)**で"***L 3.0 −***"のように"−"が表示されます。
- 自動スピーカー設定後、**「スピーカーの有無の設定と確認」(→ 10 ページ)**をすると、自動スピーカー設定は無効になります。

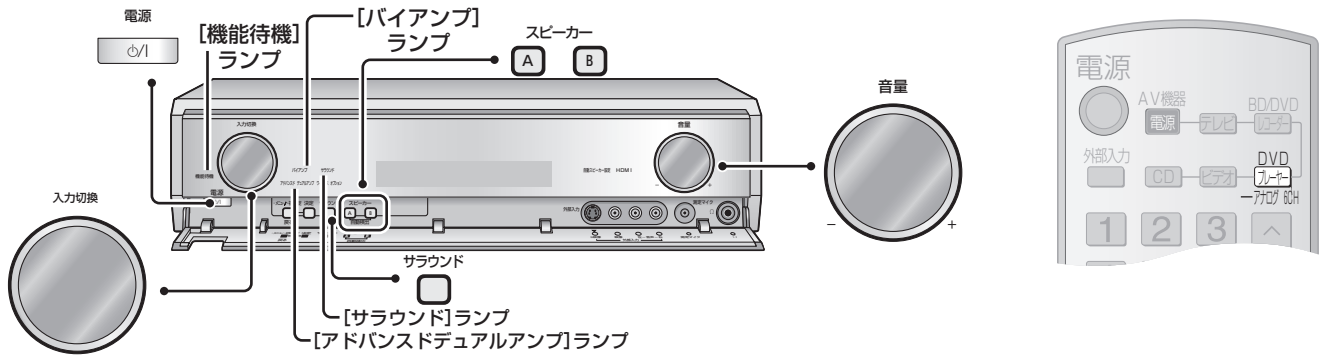
☞ 設定後、[自動スピーカー設定]ランプが消えている場合
各種設定の変更などにより、自動スピーカー設定が無効になっています。

スピーカーのサイズについて

- LARGE(ラージ): 20 Hz までの低音域が十分に再生できるスピーカー
- SMALL(スモール): LARGE の条件に満たないスピーカー
- お好みにより**「スピーカーの有無とサイズを設定する」(→ 33 ページ)**で自動設定されたスピーカーサイズを変更できます。

低域フィルターについて

スピーカーがSMALLの場合は、低音域を十分に再生できません。再生できる周波数に応じて低域フィルターの周波数を設定し、不足している低音域をサブウーハーに出力させます。

再生する

基本の再生

1 本機の電源を入れる

電源 ⏻/I を押す

[サラウンド] ランプが点灯します。(初期設定)

• 電源を入れると [機能待機] ランプが消えます。

○○お知らせ○○

初めて再生する場合やスピーカーの数を変更した場合は、必ずスピーカーの有無を検出してください。(➔ 10、22 ページ)

2 スピーカーA を選ぶ

スピーカー A を押し、"A"を点灯させる

スピーカー
A

☞ **スピーカーB を使用する場合**
[スピーカーB] を押す。(➔ 25 ページ)

☞ **バイワイヤー接続の場合(➔ 20 ページ)**
[スピーカーA] または [スピーカーB] を押して、"A"と"B"を点灯させる。

スピーカー
BI-WIRE
A B

☞ **バイアンプステレオサウンドを楽しむ場合(➔ 25 ページ)**

3 入力を切り換える

• 再生したい機器と違う名前の端子に接続した場合は、端子名の方を選んでください。

入力切換

を回す

☞ **ビデオデッキ一体型 DVD レコーダーの場合(➔ 17 ページ)**
• DVD を楽しむとき:"***BD/ DVR***"に合わせる
• ビデオを楽しむとき:"***VCR***"に合わせる

BD/DVR (初期設定)

CD→***TV***→***DVD***→***BD/DVR***→***VCR***(ビデオ)→***AUX***(外部入力)

• ***BD/DVR***(BD/DVD レコーダー)の場合、表示後に"***BD RECORDER/ DVD RECORDER***"と一度表示が流れます。
• リモコンでも、入力の切り換えができます。(➔ 5 ページ)

4 本機と接続した機器を再生する

☞ **ステレオ再生とサラウンド再生を切り換える場合**
[サラウンド] を押す。

5 音量を調整する

音量

を回す

VOL -50dB

音量の範囲:
-- -- dB(最小),***–79 dB*** ～ ***0 dB***(最大)

再生を楽しんだ後は

音量を下げてから[⏻/I 電源]を押し、電源を切ってください。

本機で再生できるデジタル信号:AAC、ドルビーデジタル(ドルビーデジタルサラウンド EX を含む)、DTS(DTS-ES、DTS 96/24 を含む)、PCM(➔ 43 ページ)

○○お知らせ○○

• [サラウンド]の「入/切」は、入力切り換えごとに記憶されます。
• ドルビーデジタルや DTS などのサラウンドソースが入力された時は、[サラウンド]を「切」にしていても、常に「入」になります。
• サラウンドソースを再生中に[サラウンド]を「切」にすると、2チャンネルミックス(2CH MIX)になります。(DVDオーディオのダウンミックス禁止ソースを除く)
2 チャンネルミックスは電源を「切」にしたり、入力を切り換えたりした場合、解除されます。
• サンプリング周波数が96 kHzよりも大きな入力信号の場合は、[サラウンド] は自動的に「切」になります。
• デジタル信号が入ってきたときや、入力ソースが切り換わったときは、ソースのチャンネル数が表示部に出ます。(ソースによっては表示されないこともあります。)

3/2.1
— サブウーハー
— サラウンド、サラウンドバックのチャンネル数
— フロント、センターのチャンネル数

スピーカーB を使う	フロント B 端子に接続したスピーカーから音声を出力します。 [スピーカー B] を押し、"B"を点灯させる スピーカー B ☞ フロント A 端子に接続したスピーカーの音を消したい場合 [スピーカー A]を押して"A"を消してください。	
アドバンスドデュアルアンプ	ステレオ再生や 5.1 チャンネル再生した場合に自動的に機能します。 通常の再生よりも明瞭で高音質なサウンドが楽しめます。 機能が働いているときは [アドバンスドデュアルアンプ] ランプが点灯します。 • アドバンスドデュアルアンプ機能が働かないようにすることもできます。(→ 34 ページ)	
バイアンプ	バイワイヤー接続のとき、アナログ音声や 2 チャンネルの PCM 信号を再生させると自動的に機能します。 **準備** • バイワイヤー接続する。(→ 20 ページ) • 「バイワイヤー接続の設定をする」で、"*YES*"にする。(→ 20 ページ) • [サラウンド]を「切」にする。(→ 12、24 ページ) • 機能が働いているときは[バイアンプ]ランプが点灯します。 • 細かく設定したい場合は「バイアンプの設定をする」(→ 34 ページ)をご覧ください。	
DVD オーディオの再生	デジタル接続で楽しむ	DVD レコーダーや DVD プレーヤーを HDMI 接続(→ 7 ページ)かデジタル接続（同軸 1）(→ 14、15 ページ)で接続してください。
	DVD アナログ 6CH	**準備** • アナログ 6CH 接続をする。(→ 18 ページ) • [スピーカー A]を選ぶ。または、バイワイヤースピーカーを「入」にする。(→ 24 ページ) • 入力切換を"*DVD*"にする。(→ 24 ページ) **"*DVD 6CH*"が表示されるまで [DVD プレーヤー ―アナログ 6CH] を押したままにする** DVD 6CH • 解除するには"*DVD*"が表示されるまで、押したままにする。 ☞ DVDレコーダーと接続している場合 入力ソースを"*BD/DVR*"にしていると、再生できません。アナログ 6CH 接続をして、"*DVD*"に切り換えてください。
	2 チャンネルアナログ音声を高音質で楽しむ	サンプリング周波数が 192 kHz で 2 チャンネルソースの DVD オーディオを高音質なステレオサウンドで楽しめます。 1 "*DVD 6CH*"を解除する。(→ 上記) 2 「入力信号の設定をする」で、入力信号をアナログに固定する。(→ 35 ページ)

お知らせ

スピーカーB について
• スピーカーB のみを使用した場合は、2 チャンネルの再生になります。
• スピーカーB のみ選択している場合に、入力がサラウンドソースであれば、"**2CH MIX**"が表示されます。
• DVDアナログ6CH接続をしているときは、フロント2チャンネルの音声が出力されます。
• スピーカーB のみ選択している場合、「**スピーカーの有無とサイズを設定する**」(→ 33 ページ)の設定に関わらず、以下の動作状態に固定されます。
スピーカーのサイズ: "***LARGE***"(ラージ)
サブウーハー: "***NO***"(無し)(低域成分はフロントスピーカーから出力されます)
• 自動スピーカー設定(→ 22、23 ページ)での設定は無効になります。

アドバンスドデュアルアンプについて(→ 43 ページ)
• 使用されていないアンプを利用して、1つのスピーカーを2個のアンプで駆動する機能です。通常の再生よりも明瞭で高音質なサウンドが楽しめます。さらにステレオ再生の場合は、3 個のアンプで駆動するトリプルアンプになります。
ステレオ再生: フロント、サラウンド、サラウンドバック用のアンプを使って、フロントスピーカーを駆動します。(トリプルアンプモード)
5.1 チャンネル再生: フロント、サラウンドバック用のアンプを使って、フロントスピーカーを駆動します。(デュアルアンプモード)
• サラウンドスピーカーをワイヤレスにしている場合は、(→ 21 ページ)ワイヤレスシステムのアンプを使用して 5.1 チャンネル再生を行いますので、フロントスピーカーがトリプルアンプモードになります。

バイアンプについて(→ 43 ページ)
• フロント用とサラウンド用のアンプを利用して、スピーカーの高周波域と低周波域を別々に駆動する機能です。
• バイアンプ動作時もアドバンスドデュアルアンプ機能が使用可能です。この場合、より明瞭で高音質なステレオサウンドを楽しむことができます。
• 「**バイワイヤー接続の設定をする**」(→ 20ページ)をしている場合、可能な限りバイアンプ機能とアドバンスドデュアルアンプ機能の両方が有効になります。この場合のアドバンスドデュアルアンプはデュアルアンプモードです。
トリプルアンプモードを使用したい時は「**バイアンプの設定をする**」の「**バイアンプ機能を解除する(トリプルアンプモードを使用する)**」(→ 34 ページ)で"***OFF***"を選んでください。
• DVD アナログ 6CH のときはバイアンプ機能は使用できません。

DVD オーディオの再生について
DVDレコーダー、DVDプレーヤー側の設定は下記のようにしてください。(通常、初期設定でこの設定になっています。)
• スピーカーサイズ : すべて LARGE
• スピーカーの有無 : すべて有り
• 距離の設定 :0 またはすべて等距離

テレビや DVD などをサラウンド音声で聞く

サラウンド効果を加えたり、2 チャンネルのステレオソースをサラウンドで聞くことができます。

DOLBY PRO LOGIC IIx（ドルビー プロ ロジック）

• 2 チャンネルのステレオソース(音源)をサラウンドで楽しめます。
• ドルビーデジタル、DTS、AACの5.1チャンネルのソース(音源)を7.1チャンネル(サラウンドバック２本接続時)や6.1 チャンネル(サラウンドバック 1 本接続時)で楽しむことができます。
• ドルビーデジタルサラウンド EX ソースのサラウンドバックチャンネルを有効にします。

[PLIIx] を押して、下記モードを選ぶ
(各モードは、押すごとに切り換わります。)

MOVIE → MUSIC → EX または GAME

☞ 解除する場合

[切] を押す

NEO:6（ネオ）

• 2 チャンネルのステレオソース(音源)をサラウンドで楽しめます。
• ドルビーデジタル、DTS、AAC の5.1チャンネルのソース(音源)を6.1チャンネルで楽しむことができます。

[NEO:6] を押して、下記モードを選ぶ
(各モードは、押すごとに切り換わります。)

CINEMA → MUSIC

☞ 解除する場合

[切] を押す

SFC(Sound Field Control)（サウンド フィールド コントロール）

ドルビーデジタル、DTS、AAC、アナログや PCM のソース(音源)に好みの臨場感や広がり感を与えたサラウンドが楽しめます。

音楽ソース(音源)で効果があります。

MUSIC
(ミュージック)

SFC [音楽] を押して、下記モードを選ぶ
(各モードは、押すごとに切り換わります。)

各モードは、SFC [音楽] を押してから、◀ [−] ▶ [+] を押しても、選べます。

LIVE → POP/ROCK → VOCAL → JAZZ → DANCE → PARTY

☞ 解除する場合

[切] を押す

映画ソフトで効果があります。

MOVIE
(ムービー)

SFC [映画] を押して、下記モードを選ぶ
(各モードは、押すごとに切り換わります。)

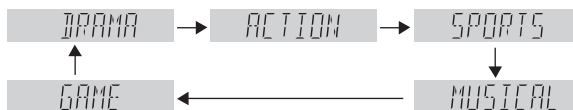
各モードは、SFC [映画] を押してから、◀ [−] ▶ [+] を押しても、選べます。

DRAMA → ACTION → SPORTS → MUSICAL → GAME

☞ 解除する場合

[切] を押す

お知らせ

• 測定マイクを使用して設定されたレベル(➔ 22、23 ページ)は、ドルビープロロジックIIx、NEO:6、SFC 全てに適用されます。
• ソースによっては、サラウンド効果が使用できない場合があります。
• 各設定は、電源を切っても記憶されます。
• ドルビープロロジックIIx、NEO:6、SFC を「切」にした場合、ソースに記録されたチャンネル数でスピーカーに出力されます。
例えば、5.1 チャンネルソースなら、フロント、センター、サラウンド、サブウーハーから出力され、サラウンドバックは無音になります。

DOLBY PRO LOGIC Ⅱx（ドルビー プロ ロジック）	
“MOVIE”（ムービー）	特にドルビーサラウンドで記録されたものなど、映画ソフトで効果があります。 サラウンドバックスピーカーを２本接続している場合、サラウンドバックはステレオ再生になります。 ご購入時は、このモードになっています。
“MUSIC” （ミュージック）	音楽ソース（音源）で効果があります。
“EX” （ドルビーデジタル EX）	特にドルビーデジタルサラウンドEXで記録された映画ソフトで効果があります。 サラウンドチャンネルを持っているソースに対してのみ有効です。 サラウンドバックスピーカーを２本接続している場合、サラウンドバックはモノラル再生になります。 • サラウンドバックスピーカーを１本のみ接続している場合は“DD PL Ⅱx”が消え、“DD DIGITAL EX”または、“DD EX”の表示になります。
“GAME”（ゲーム）	迫力のあるサウンドでゲームなどを楽しめます。 ２チャンネルのステレオソースに対して有効です。 ただし、サラウンド、サラウンドバックの各スピーカーが接続されていない（➔ 9、10、22、23ページ）および「**スピーカーの有無とサイズを設定する**」で“***NONE***”に設定している（➔ 33ページ）場合は使用できません。
NEO:6（ネオ）	
“CINEMA”（シネマ）	映画ソフトで効果があります。
“MUSIC” （ミュージック）	音楽ソース（音源）で効果があります。
SFC（Sound Field Control）（サウンド フィールド コントロール）	
“LIVE”（ライブ）	大きなコンサートホールにいるような音の反響と広がり。
“POP/ROCK” （ポップ/ロック）	ポピュラーやロック音楽に適した効果。
“VOCAL”（ボーカル）	ボーカルの声を際立たせる効果。
“JAZZ”（ジャズ）	ジャズクラブのような狭い部屋での音の反響。
“DANCE”（ダンス）	ダンスホールのような広い空間で響いている音の広がり感。
“PARTY”（パーティ）	パーティ会場などでかけられているBGMのように、どこにいてもステレオで音楽が聞こえるような効果。
“DRAMA”（ドラマ）	セリフがメインになるようなドラマに適した効果。
“ACTION” （アクション）	迫力のあるアクション映画に適した効果。
“SPORTS”（スポーツ）	スポーツ観戦をしているような臨場感。
“MUSICAL” （ミュージカル）	ミュージカル劇場にいるような臨場感。
“GAME”（ゲーム）	迫力のあるサウンドでゲームなどを楽しむとき。

お知らせ

DOLBY PRO LOGIC Ⅱx について

サラウンドバックスピーカーを１本のみ接続している場合は、“***EX***”または“***MUSIC***”のどちらかの選択になります。

NEO:6 について

• ドルビーデジタル、AAC、DTSの２チャンネルのステレオソースでサラウンド情報を持っているソースは“***CINEMA***”モード、サラウンド情報を持っていないソースでは“***MUSIC***”モードが使用できます。
• 「**スピーカーの有無とサイズを設定する**」（➔ 33ページ）で、すべてのスピーカーを“***LARGE***”に設定した場合、2チャンネルのステレオソースにNEO:6を使用してもサブウーハーから音声は出力されません。

SFC について

• “***PARTY***”モードでは、サラウンドバックスピーカーを１本接続時、センタースピーカーを使用していない場合は、サラウンドバックスピーカーからは音が出ません。
  また、サラウンドバックスピーカーを使用していない場合は、センタースピーカーからは音が出ません。
• 入力ソースとモードの組み合わせによっては、音がひずんだように聞こえることがあります。
  その場合は、「**効果の強弱を調整する**」（➔ 28ページ）で効果のレベルを下げるか、26ページの操作で他のモードを選んでください。

リモコンで操作する音質・音場効果や便利な機能

各モードについては、26、27 ページを参照してください。

DOLBY PRO LOGIC IIx の"*MUSIC*"をさらに調整する

（ドルビー プロ ロジック）

入力ソース（音源）が 2 チャンネルのステレオのときに使用できます。

DIMEN 0

(Dimension Control/ディメンション コントロール)

フロントとサラウンドスピーカーの出力バランスを調整できます。

［エフェクト］を押して"*DIMEN*"を選び、［◀ −］［▶ ＋］を押して調整する

調整範囲： ***–3***（サラウンドが強くなる）～ ***+3***（フロントが強くなる）
初期設定： ***0***

C-WIDTH 3

(Center Width Control/センターウイドゥス コントロール)

フロントとセンタースピーカーの音を全体的に調整して、より自然な音楽再生ができます。

［エフェクト］を押して"*C-WIDTH*"を選び、［◀ −］［▶ ＋］を押して調整する

調整範囲：***0***（センターがはっきりする）～ ***7***（センターが広がる）
初期設定：***3***

PANORAMA

（パノラマ）

サラウンドスピーカーのさらなる広がりによって音楽に包まれるような感覚が得られます。

［エフェクト］を押して"*PANORAMA*"を選び、［◀ −］［▶ ＋］を押して"*ON*（入）"または"*OFF*（切）"を選ぶ

初期設定：***OFF***

NEO:6 の"*MUSIC*"をさらに調整する

（ネオ）

入力ソース（音源）が 2 チャンネルのステレオのときに使用できます。

C-IMAGE 2

(Center Image Control/センター イメージ コントロール)

フロントとセンタースピーカーの音を全体的に調整して、より自然な音楽再生ができます。

［エフェクト］を押して"*C-IMAGE*"を選び、［◀ −］［▶ ＋］を押して調整する

調整範囲：***0***（センターがはっきりする）～ ***5***（センターが広がる）
初期設定：***2***

SFC (Sound Field Control) をさらに調整する

（サウンド フィールド コントロール）

出力レベルを調整する

［レベル］を押して各スピーカーを選び

［◀ −］［▶ ＋］を押して調整する

C（センター）、***RS***（右サラウンド）、***SBR***（右サラウンドバック）、
SBL（左サラウンドバック）（サラウンドバック 1 本時は ***SB***）、***LS***（左サラウンド）
調整範囲：***–20 dB*** ～ ***+10 dB***　初期設定：***0 dB***

SUBW（サブウーハー）
調整範囲：***---***（切）、***MIN***（最小）、***1*** ～ ***29***、***MAX***（最大）　初期設定：***20***

お知らせ

- "*PARTY*"モード（→ 26、27 ページ）にしている場合、サブウーハー以外の各スピーカーのレベル調整はできません。
- 接続していない（→ 9、10、22、23 ページ）または**「スピーカーの有無とサイズを設定する」**で無しに設定している（→ 33 ページ）スピーカーは調整できません。

効果の強弱を調整する

［エフェクト］を押して、［◀ −］［▶ ＋］を押して調整する

調整範囲：***EFFECT 1***（最小）～ ***EFFECT 10***（最大）
初期設定：***EFFECT 5***

お知らせ

"*PARTY*"モード（→ 26、27 ページ）にしている場合、効果の強弱は調整できません。

お知らせ

各設定は、電源を切っても記憶されます。

スピーカーの音量調整をする

スピーカー表示
L:フロント(左)
C:センター
R:フロント(右)
RS:サラウンド(右)
LS:サラウンド(左)
SBR:サラウンドバック(右)
SBL:サラウンドバック(左)
SB:サラウンドバック(1 本接続時)
SW (SUBW):サブウーハー

視聴位置で、フロントスピーカーの音と各スピーカーの音がバランスよく聞こえるように、スピーカーの出力レベルを調整します。
スピーカーの有無を自動で検出した後(➜ 10 ページ)などに調整してください。

準備 本体の[スピーカーA]を押し、"A"を点灯させる。(バイワイヤー接続の場合は、[スピーカーA]または[スピーカーB]を押し、"A"と"B"を点灯させる。)

○○お知らせ○○
スピーカーB のみ選択されているときは、テスト信号は出力されません。

1 [−オート テスト] を押す

- 約 2 秒間隔で下記の順にテスト信号が出力されます。

L → C → R → RS → SBR → SBL → LS → SW または、

L → C → R → RS → SB → LS → SW (サラウンドバックスピーカー1 本接続時)

- 接続していない(➜ 9、10、22、23 ページ)または「**スピーカーの有無とサイズを設定する**」で無しに設定している(➜ 33 ページ)スピーカーは、テスト信号は出力されません。

TEST L
スピーカー表示

2 [+ 音量 −] でフロントスピーカーを通常聞く音量にする

VOL -50dB
音量の範囲:
-- -- dB(最小)、
–79 dB ~ ***0 dB***(最大)

3 [レベル] を押して、調整するスピーカーを選ぶ

- 押すごとに下記の順に切り換わります。

C → RS → SBR → SBL → LS → SUBW または

C → RS → SB → LS → SUBW (サラウンドバックスピーカー1 本接続時)

C 0dB
スピーカー表示

4 [◀ −] [▶ +] を押して、各スピーカーの音量を調整する

C +4dB
調整範囲:
–20 dB ~ ***+10 dB***
(初期設定:***0 dB***)
SUBWのみ:***MIN***(最小)↔ ***1*** ~ ***29*** ↔ ***MAX***(最大)
(初期設定:***20***)

手順 3 と 4 を繰り返して各スピーカーを調整する
- 手順 3 と 4 では調整しているスピーカーからのみテスト信号が出力されます。
- 操作後約 2 秒経つと、再び順に出力されます。
- テスト信号を止めるときは、[−オート、テスト]を押してください。

サブウーハーレベルの調整をする

ソース(音源)を再生中に出力レベルを調整できます。重低音に物足りなさを感じたり、抑えて出力させたいなど、好みにあわせて調整できます。

[サブウーハー] を押して、選ぶ

- "***---***"を選ぶとサブウーハーから音は出ません。

SUBW 20
調整範囲:***---***(切)、***MIN***(最小)、***5***、***10***、***15***、***20***、***25***、***MAX***(最大)
- 初期設定は"***SUBW 20***"です。

○○お知らせ○○
- サブウーハーレベルが高い状態で本機の音量を上げると、サブウーハーから出力される音がひずんで聞こえることがあります。この場合はサブウーハーレベルを下げてください。
- 細かく設定したいときは、「**スピーカーの音量調整をする**」(➜ **上記**)で、出力レベルを調整してください。

一時的に音を消す

[消音] を押す

- 機能が働いている間、表示部に"***MUTING IS ON***"と繰り返し表示(スクロール)されます。
- もう一度押すと、解除されます。

MUTING IS

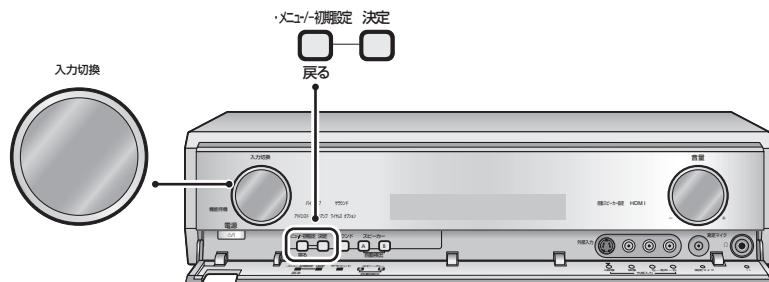
○○お知らせ○○
電源を切ったり、音量操作をしたりすると消音は解除されます。

表示部を暗くする(ディマー)

[ディマー] を押す

- 押すと、表示部が暗くなります。([入力切換]と[音量]の上のライトも消えます。)
- もう一度押すと、解除されます。

○○お知らせ○○
本体操作で、表示部の明るさの調整ができます。(➜ 31 ページ)

音質・音場効果/便利な機能

設定の方法

1 「メニュー」に入る

[・メニュー/−初期設定 戻る] を押す

2 設定する項目を選ぶ

[入力切換] を回して項目を選び、

BASS 0 ↔ TREBLE 0 ↔ BALANCE
↕
EXIT ↔ DIMMER OFF ↔ DUAL MAIN

[決定] を押して決定

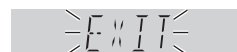
3 設定をする

[入力切換] を回して設定し、

[決定] を押して決定

4 設定を終える

[・メニュー/−初期設定 戻る] を数回押して "***EXIT***" を選び

[決定] を押して決定

EXIT

- 元の表示に戻ります。
- "***EXIT***"は [入力切換] を回すことでも選べます。

☞ ひとつ前に戻る/キャンセルする

[・メニュー/−初期設定 戻る] を押す

低音の調整をする

• BASS(バス)(低音)を調整できます。

1 BASS　0 **を選び、決定**

2 調整し、決定

BASS　0

調整範囲：*–10* dB ～ *+10* dB
初期設定：*0* dB

高音の調整をする

• TREBLE(トレブル)(高音)を調整できます。

1 TREBLE　0 **を選び、決定**

2 調整し、決定

TREBLE　0

調整範囲：*–10* dB ～ *+10* dB
初期設定：*0* dB

音量バランスの調整をする

• 左右フロントスピーカーの出力バランスを調整できます。

1 BALANCE **を選び、決定**

2 調整し、決定

L　R

バーの表示は目安です。

L：左フロント　***R***：右フロント

お知らせ

SFC の“***PARTY***”モード(→ 26、27 ページ)を使用している場合は、音量バランスの調整はできません。

二重音声を切り換える

• BS デジタル放送の AAC 信号やドルビーデジタル、DTS の二重音声を切り換えることができます。

二重音声信号を受信すると表示部に“***DUAL PRG***”と表示されます。

1 DUAL MAIN **を選び、決定**

2 音声を選び、決定

DUAL MAIN

MAIN：主音声
SUB：副音声
M+S：主＋副音声
初期設定：***MAIN***

表示部の明るさを調整する

• 部屋を暗くして、映画を見るときなどに便利です。

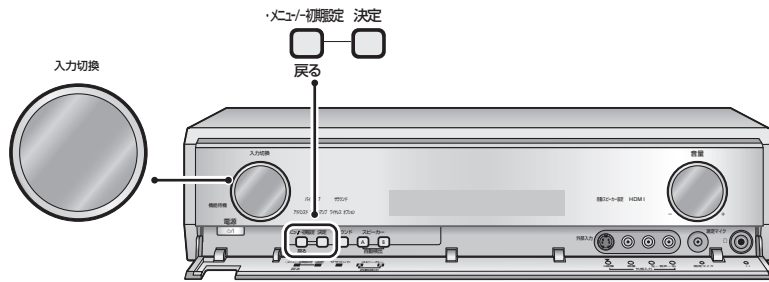
1 DIMMER OFF **を選び、決定**

2 設定を選び、決定

DIMMER　1

調整範囲：***DIMMER 1***(明)～ ***DIMMER 3***(暗)
初期設定：***OFF***

• 解除するには“***DIMMER OFF***”を選ぶ。
• ***DIMMER1***～***3***を選ぶと、[入力切換]と[音量]の上のライトも消えます。

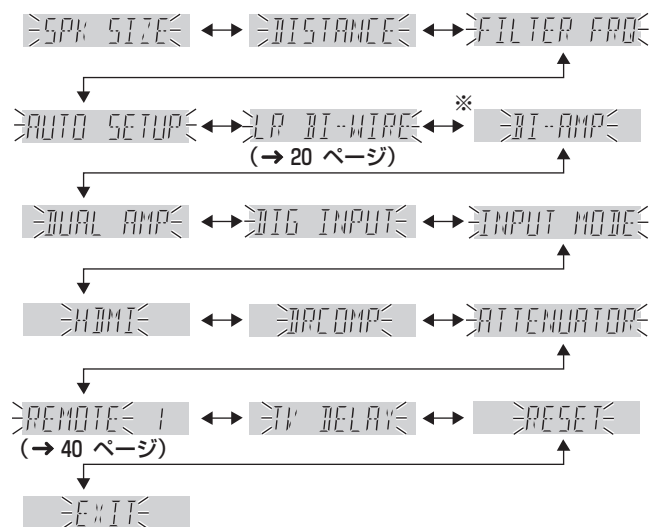
アンプの設定をする

設定の方法

1 「初期設定」に入る

・メニュー/ー初期設定 戻る を約 2 秒間押したままにする

2 設定する項目を選ぶ

を回して項目を選び、

決定 を押して決定

※ “***BI-AMP***”はフロントスピーカーをバイワイヤー設定している場合に、表示されます。(→ 20 ページ)

3 設定をする

を回して設定し、

決定 を押して決定

• 設定によっては、この操作を数回繰り返します。

4 設定を終える

・メニュー/ー初期設定 戻る を数回押して “***EXIT***”を選び

EXIT

決定 を押して決定

• 元の表示に戻ります。
• “***EXIT***”は [入力切換] を回すことでも選べます。

ひとつ前に戻る/キャンセルする

を押す

スピーカーの有無とサイズを設定する

• 接続しているスピーカーの有無とサイズの設定を手動で設定できます。
• スピーカーにより再生できる周波数帯域は異なります。特に低音域を不足することなく再生させるためにサイズの設定を行います。

1 SPK SIZE **を選び、決定**

2 設定するスピーカーを選び、決定

SUBW YES

3 設定を変更し、決定

SUBW NO

手順2から“*SPK SIZE*”に戻る場合

RETURN **を選び、決定**

LR **(フロント)を“*LARGE*”にした場合**

• アナログやPCMソースをステレオで再生している場合、サブウーハーからも低音域の音声が出力されます。
• ドルビーデジタル、DTS、AACの2チャンネルのソースをステレオで再生している場合、ソースに含まれるLFE(重低音効果チャンネル)信号以外は、サブウーハーから出力されません。

SUBW: サブウーハー
LR: フロントスピーカー
C: センタースピーカー
S: サラウンドスピーカー
SB: サラウンドバックスピーカー

SUBW(サブウーハー)
NO:接続していない ***YES***:接続している
LR(フロント)、***C***(センター)、***S***(サラウンド)
NONE(センター、サラウンドのみ):接続していない
SMALL:LARGEの条件に満たないスピーカーを接続している
LARGE: 20 Hzまでの低音域が十分に再生できるスピーカーを接続している
SB(サラウンドバック)
NONE:接続していない
1-SPK:1本接続している
2-SPK:2本接続している
初期設定:
LR(フロント)、***C***(センター)、***S***(サラウンド) :***SMALL***
SUBW(サブウーハー) :***YES***
SB(サラウンドバック) :***2-SPK***

お知らせ

• “***SMALL***”の場合、再生できる周波数に応じて、低域フィルターの周波数を設定してください。(購入時は80 Hzに設定されています。)**(→下記)**
• 下記の場合、自動的に設定されます。
LR(フロント)を“***SMALL***”にすると、***SUBW***(サブウーハー)は“***YES***”
SUBW(サブウーハー)を“***NO***”にすると、***LR***(フロント)は“***LARGE***”
• ***SB***(サラウンドバック)は***S***(サラウンド)が“***NONE***”の場合、表示されません。
• ***SB***(サラウンドバック)のサイズは、***S***(サラウンド)で選択したサイズと同じになります。
• スピーカーの本数を変更すると、自動スピーカーの設定は無効になります。**(→22、23ページ)**

距離の設定をする

• フロント/センター/サラウンド/サラウンドバックスピーカーから視聴位置までの距離を設定することで、視聴位置に届く音の遅延時間を自動的に算出し、補正します。

1 DISTANCE **を選び、決定**

2 設定するスピーカーを選び、決定

L 3.0 m

3 距離を選び、決定

L 3.0 m

L: フロント(左) ***C***:センター
R: フロント(右) ***LS***:サラウンド(左)
RS:サラウンド(右)
SBL:サラウンドバック(左)
SBR:サラウンドバック(右)

設定値:***0.5***〜***15.0*** m
• 0.1 m単位で切り換えられます。
初期設定:***L, R***(フロント左、右) ***3.0*** m
C(センター) ***3.0*** m
LS, RS(サラウンド左、右) ***1.5*** m
SBL, SBR(サラウンドバック左、右) ***1.5*** m

お知らせ

• 付属の測定マイクで自動スピーカー設定をした場合、極性を自動補正したスピーカーには“***L 3.0 –***”のように“–”が表示されます。
• 自動スピーカー設定**(→22、23ページ)**で距離の測定値が15 mを超えた場合、距離の部分が“***OVER***”と表示されます。

低域フィルターの設定をする

• スピーカーのサイズ(→上記)が“***SMALL***”の場合のみ行ってください。
• スピーカーが“***SMALL***”の場合は低音域を十分に再生することができません。再生できる周波数に応じて低域フィルターの周波数を設定し、不足している低音域をサブウーハーに出力させます。

1 FILTER FRQ **を選び、決定**

2 低域フィルターの周波数を選び、決定

100

80〜***200*** Hzの範囲内で、20 Hz間隔で設定できます。
設定したHz以下の低音域をサブウーハーに出力させます。

初期設定: ***80***

お知らせ

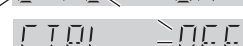
“***SMALL***”にしたすべてのスピーカーに設定されます。

アンプの設定をする（つづき）

操作方法は 32 ページをご覧ください。

項目	設定	操作	説明
自動スピーカー設定を変更する ①付属の測定マイクを使用して設定したスピーカー設定の内、極性補正、周波数特性補正を購入時の状態に戻します。(この操作で、自動スピーカー設定インジケーターは消えます。) ②正しく接続していても極性が逆と判定されるスピーカーがあります。その場合は、極性を自動補正しない設定にして、極性を反転させないようにします。	①購入時の状態に戻す	**1** AUTO SETUP **を選び、決定** **2** DEFAULT **を選び、決定** **3** YES **を選び、決定** • 中止するには "***NO***" を選ぶ	***YES***:購入時の状態に戻す ***NO***: 購入時の状態に戻さない
	②極性を自動補正しない設定にする	**1** AUTO SETUP **を選び、決定** **2** POLARITY **を選び、決定** **3** CHECK NO **を選び、決定**	***CHECK YES***: 通常の自動スピーカー設定をする ***CHECK NO***: 極性を自動補正しない設定にする
バイアンプの設定をする • フロントスピーカーをバイワイヤー設定している場合に表示されます。(➔ 20 ページ) ①バイアンプ機能を使わずに、フロント、サラウンド、サラウンドバック用のアンプを利用してスピーカーを駆動させることができます。(トリプルアンプモード) ②スピーカーの HF(高域)と LF(低域)の出力バランスを調整します。 ③スピーカーの HF(高域)と LF(低域)のずれによる音声の遅延時間を補正します。	①バイアンプ機能を解除する(トリプルアンプモードを使用する)	**1** BI-AMP **を選び、決定** **2** FUNCTION **を選び、決定** **3** OFF **を選び、決定** • トリプルアンプモードを使用すると [バイアンプ] ランプが消えます。	***AUTO***:バイアンプ機能を使用する ***OFF***:バイアンプ機能を使用しない(トリプルアンプモードを使用する) 初期設定: ***AUTO***
	②バランスの調整をする	**1** BI-AMP **を選び、決定** **2** BALANCE **を選び、決定** **3 調整し、決定** LF HF バーの表示は目安です。	***LF***:低域 ***HF***:高域
	③HF と LF のずれを補正する スピーカー（横側、断面図） 	**1** BI-AMP **を選び、決定** **2** HF DELAY **を選び、決定** **3 調整し、決定** DELAY 0 cm	調整範囲: ***0*** ～ ***30*** cm • 1cm 単位で切り換えられます。 初期設定: ***0*** cm
アドバンスドデュアルアンプ機能を働かせない設定にする		**1** DUAL AMP **を選び、決定** **2** OFF **を選び、決定**	***AUTO***:アドバンスドデュアルアンプ機能が働く設定にする ***OFF***:アドバンスドデュアルアンプ機能が働かない設定にする 初期設定: ***AUTO***

操作方法は 32 ページをご覧ください。

デジタル入力端子を変更する • デジタル入力端子に接続した機器に合わせて、設定を変更します。 • ひとつの入力は複数の端子で使用できません。 （例）DVDを“*OPT 1*”の設定に変更した場合、DVD は“*OPT 1*”（光 1）以外のデジタル端子で使用できません。	**1** DIG INPUT **を選び、決定** **2 デジタル入力端子に接続した機器を選び、決定** TV OPT1 **3 デジタル入力の設定を変更し、決定** TV OPT1 **手順 2 と 3 を繰り返し、設定を変更** ***TV***: テレビ ***DVR***: DVD レコーダー ***DVD***: DVD プレーヤー ***CD***: CD プレーヤー 初期設定: ***TV***: ***OPT1***（光 1） ***DVR***: ***OPT2***（光 2） ***DVD***: ***COAX1***（同軸 1） ***CD***: ***COAX2***（同軸 2）
入力信号の設定をする • DVD レコーダーや DVD プレーヤーなどの入力をデジタル、アナログで自動判別するのか、固定するのかを設定します。 • 特に信号を固定する必要のないときは、“*AUTO*”にしてください。	**1** INPUT MODE **を選び、決定** **2 デジタル入力端子に接続した機器を選び、決定** TV AUTO **3 入力信号の判別方法を選び、決定** TV AUTO **手順 2 と 3 を繰り返し、設定を変更** PCM FIX について • CD を再生したとき、曲の始まりが途切れるような場合に使用してください。 • 正常に再生できる場合はこの設定をする必要はありません。 • ノイズが発生する場合は解除してください。 ***TV***: テレビ ***DVR***: DVD レコーダー ***DVD***: DVD プレーヤー ***CD***: CD プレーヤー ***AUTO***:デジタル、アナログの自動判別（デジタルの場合、HDMI が優先されます） ***ANALOG***：アナログに固定 ***DIG***:デジタルに固定 ***PCMFIX***:PCM（音楽 CD など）のデジタルに固定 初期設定: ***TV***、***DVR***、***DVD***、***CD***: ***AUTO*** お知らせ • デジタルに固定した場合、常に表示部に“**デジタル入力**”の表示が出ます。 • PCMFIX に設定すると、“**PCM** ”のディスプレイ表示が出ます。 • PCM FIX 設定時にデジタル接続（光、同軸）で PCM 以外のソースが入力された場合は、表示部に“***PCM FIX***”が点滅します。
本機の電源「切」時の消費電力を下げる（省待機電力モード）	**1** HDMI **を選び、決定** **2** STNBY ON **を選び、決定** **3** STNBY OFF **を選び、決定** お知らせ “***OFF***”に設定した場合、以下のようになります。 • 電源「切」時の消費電力が約 0.3 W になります。 • HDMI 接続しているときは、スタンバイスルー動作（→ 7 ページ）ができなくなります。 • 電源「切」時の VIERA Link（→ 13 ページ）は無効になります。 ***OFF***:電源「切」時の消費電力を下げる場合 ***ON***:スタンバイスルーを働かせる場合（電源「切」時の消費電力は約0.7 Wになります。） 初期設定: ***ON***
VIERA Link (HDAVI Control) を使わない設定にする • VIERA Link 機能に対応したテレビ（VIERA）と DVD レコーダー（DIGA）を接続している場合に、VIERA Link 機能を使わない設定にします。	**1** HDMI **を選び、決定** **2** CTRL ON **を選び、決定** **3** CTRL OFF **を選び、決定** ***OFF***:機能を使わないとき ***ON***:機能を使うとき 初期設定: ***ON***

アンプの設定をする（つづき）

お好みで

アンプの設定をする（つづき）

操作方法は 32 ページをご覧ください。

小音量でも聞きやすくする • ドルビーデジタルに対するダイナミックレンジ圧縮機能です。 • 音声信号の最大音と最小音の差を圧縮し、音場に影響することなく小音量でもセリフを聞きやすくします。深夜など大きな音を出せない場合に便利です。	**1** DRCOMP **を選び、決定** **2 設定を選び、決定** STANDARD ◯◯お知らせ◯◯ ディスクの情報に基づき動作するため、効果がない場合があります。	***OFF***:通常の再生 ***STANDARD***:ソフト制作者が家庭用として推奨する圧縮レベル ***MAX***:深夜視聴を前提とした最大の圧縮 初期設定: ***OFF***
アッテネーターを切り換える • アナログ入力で再生中に音がひずみ、表示部に“***OVERFLOW***”が点灯した場合は、アッテネーターを「入」にしてください。	**1** ATTENUATOR **を選び、決定** **2** ON **を選び、決定** 解除するには“***OFF***”を選ぶ	***OFF***:切　***ON***:入 初期設定: ***OFF***
映像と音声を合わせる • 映像が音声よりも遅れている場合に、音声を約 40 msec 遅らせて、映像に合わせます。	**1** TV DELAY **を選び、決定** **2** ON **を選び、決定**	***OFF***: 通常の設定 ***ON***: 音声の出力を遅らせる 初期設定: ***OFF***
購入時の状態（初期設定）に戻す（RESET（リセット） 機能） • すべての設定を購入時の初期設定に戻します。 必要に応じて再度設定を行ってください。	**1** RESET **を選び、決定** **2** RESET YES **を選び、決定** 中止するには“***NO***”を選ぶ ◯◯お知らせ◯◯ リセットすると、入力ソースは“***BD/DVR***”に切り換わります。	***YES***:リセットする ***NO***:リセットしない

ヘッドホンを使う

Ω（ヘッドホン）端子

1 [スピーカーA]、[スピーカーB] を押してすべてのスピーカーを「切」にする

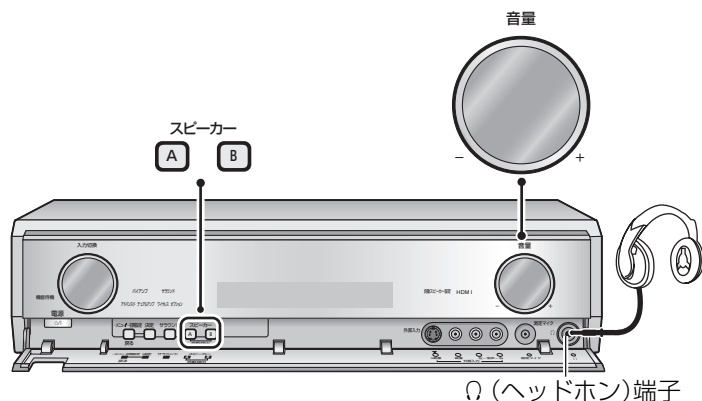
スピーカー

2 [音量 −、+] で音量を下げ、ヘッドホンを接続する

プラグタイプ: φ 6.3 mm ステレオ標準プラグ

3 [音量 −、+] で音量を調整する

◯◯お知らせ◯◯

- 耳を刺激するような大きな音で、長時間聞くことは避けてください。
- すべてのスピーカーを「切」にすることで 2 チャンネルのみの再生になり、サラウンドソース（音源）は、強制的に 2CH MIX（2 チャンネルミックス）になります。（DVD オーディオのダウンミックス禁止ソースを除く。）
- アナログ 6CH 接続（➔ 18 ページ）で再生しているときは、「DVD アナログ 6CH」（➔ 25 ページ）は解除されて、フロント 2 チャンネルの音声が出力されます。

音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。特に静かな夜間には窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。

音のエチケット
シンボルマーク

リモコンでテレビやDVDレコーダーなどを操作する

本機の他、**当社製**のテレビ、DVD レコーダー、DVD プレーヤー、ビデオデッキ、および CD プレーヤーを本機のリモコンで操作できます。（ただし操作のできない機種もあります。）各操作についての詳細は、それぞれの機器の説明書をご覧ください。

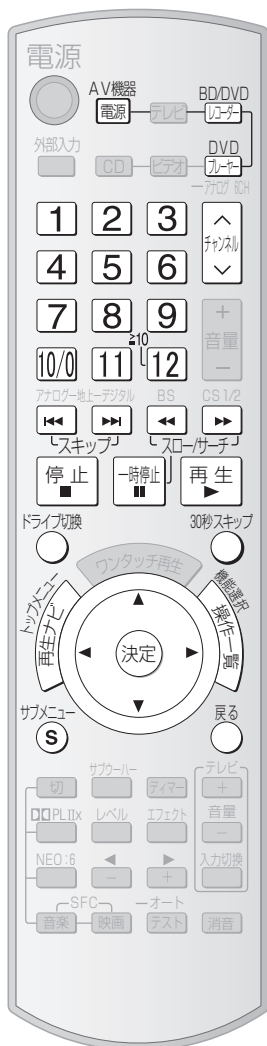
操作する機器に向けて

テレビを操作する

操作	ボタン
本機の入力を"*TV*"に切り換える/リモコンをテレビ操作モードに切り換える	[テレビ] テレビ操作の前に必ず行ってください。
テレビの電源を入/切する	AV機器 [電源]
テレビのテレビ/ビデオ入力を切り換える	[入力切換]
テレビの音量を調整する	[+] 音量 [−]
地上デジタル放送に切り換える	地上ーデジタル [▶▶I]
BS 放送に切り換える	BS [◀◀]
CS 放送に切り換える	CS 1/2 [▶▶] • 押すごとに、CS1 と CS2 が切り換わります。
地上アナログ放送に切り換える	アナログー地上 [I◀◀]
チャンネルを選ぶ	（順に選ぶとき） [∧ チャンネル ∨] （直接選ぶとき） [1] [2] [3] [4] [5] [6] [7] [8] [9] [10/0] [11] [12]

☞ **テレビのチャンネルが操作できない場合**
- 地上アナログ放送のみ対応のテレビの場合、他の放送切り換えボタンを押すと、テレビのチャンネルが操作できなくなります。
  再度、[I◀◀ アナログ - 地上] ボタンを押して、地上アナログ放送に切り換えてください。

リモコンでテレビやDVDレコーダーなどを操作する（つづき）

操作する機器に向けて

DVDプレーヤーを操作する

本機の入力を"*DVD*"に切り換える/リモコンをDVDプレーヤー操作モードに切り換える	DVD プレーヤー DVDプレーヤー操作の前に必ず行ってください。
DVDプレーヤーの電源を入/切する	AV機器 電源
再生を始める	再生 ▶
トラックやチャプターを飛び越す(スキップ)	⏮ ⏭ スキップ
見たい場所を探す(サーチ)	◀◀ ▶▶ スロー/サーチ
スロー再生	一時停止 ⏸ ▼ ◀◀ ▶▶ スロー/サーチ
再生ナビ(またはトップメニュー)を表示する	トップメニュー 再生ナビ
サブメニューを表示する	サブメニュー S
操作一覧/機能選択画面を表示する(停止中)	機能選択 操作一覧
前の画面に戻る	戻る
項目を選ぶ	[再生ナビ、トップメニュー]、[S、サブメニュー]や[操作一覧、機能選択]を押した後に操作してください。

選んだ項目を実行する	決定
トラックやチャプターを直接選ぶ	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10/0 ≧10 12 • 数字ボタンを押した後、[決定]を押して実行する機種もあります。
一時停止する	一時停止 ⏸
コマ戻し／コマ送りする	一時停止 ⏸ ▼ ◀ ▶
再生を停止する	停止 ■

◯◯お知らせ◯◯

当社製のDVDプレーヤーには、[操作一覧/機能選択]ボタンで、画面表示(DISPLAY〔ディスプレイ〕)機能が動作する機種もあります。

DVD レコーダーを操作する

操作	ボタン
本機の入力を *"BD/DVR"* に切り換える/リモコンを DVD レコーダー操作モードに切り換える	BD/DVD [レコーダー] DVD レコーダー操作の前に必ず行ってください。
DVD レコーダーの電源を入/切する	AV機器 [電源]
再生を始める	[再生 ▶]
トラックやチャプターを飛び越す（スキップ）	[⏮] [⏭] スキップ
見たい場所を探す（サーチ）	[◀◀] [▶▶] スロー/サーチ
スロー再生	[一時停止 ❚❚] ▼ [◀◀] [▶▶] スロー/サーチ
再生ナビ（またはトップメニュー）を表示する	トップメニュー 再生ナビ
サブメニューを表示する	サブメニュー (S)
操作一覧/機能選択画面を表示する（停止中）	機能選択 操作一覧
前の画面に戻る	戻る
項目を選ぶ	[再生ナビ、トップメニュー]、[S、サブメニュー]や[操作一覧、機能選択]を押した後に操作してください。 ▲▼◀▶

操作	ボタン
選んだ項目を実行する	(決定)
トラックやチャプターを直接選ぶ	[1] [2] [3] [4] [5] [6] [7] [8] [9] [10/0] ≧10 [12] • 数字ボタンを押した後、[決定] を押して実行する機種もあります。
一時停止する	[一時停止 ❚❚]
コマ戻し/コマ送りする	[一時停止 ❚❚] ▼ ◀ ▶
30 秒先にスキップする	30秒スキップ
DVD レコーダーのドライブ（ハードディスク、ディスク、SDなど）を切り換える	ドライブ切換
チャンネルを選ぶ	（順に選ぶとき） [∧ チャンネル ∨] （直接選ぶとき） [1] [2] [3] [4] [5] [6] [7] [8] [9] [10/0] [11] ≧10 [12]
再生を停止する	[停止 ■]

本機のリモコンで当社製の DVD レコーダーを操作する場合

DVD レコーダーと本機のリモコンのリモコンモードを一致させてください。

準備

DVD レコーダーの取扱説明書に従って、DVD レコーダーのリモコンモード番号を確認する。

1 [BD/DVD レコーダー] を押す

2 [決定] を押したまま [1]、[2] または [3] を約 2 秒間押したままにする

- 押した数字ボタンに応じて、「モード 1」、「モード 2」または「モード 3」がリモコン側に設定されます。
- 初期設定は、「モード 1」です。

DVD レコーダーのドライブが切り換わらない場合

DVD レコーダー側が、本機のリモコンの出す信号を認識していない可能性があります。
下記の操作で信号を変更して、もう一度切り換えてみてください。

1 [BD/DVD レコーダー] を押す

2 [決定] を押したまま、[8] を約 2 秒間押したままにする

元に戻す場合は：
上記手順 2 の操作で、[決定] を押しながら [9] を約 2 秒間押したままにする

お知らせ

ビデオデッキ一体型 DVD レコーダーを操作する場合は、[ドライブ切換] で、VHS 以外を選択してください。

リモコンでテレビや DVD レコーダーなどを操作する（つづき）

操作する機器に向けて

◯◯お知らせ◯◯

ビデオデッキ一体型DVDレコーダーを操作する場合は、[ドライブ切換]で、VHSを選択してください。

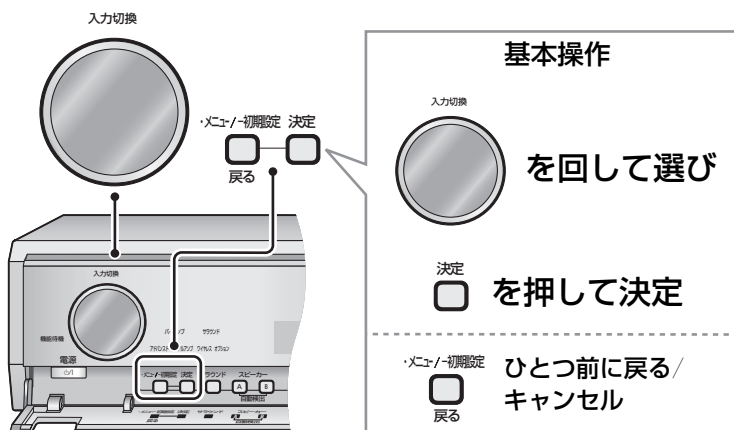
ビデオデッキを操作する

本機の入力を“*VCR*”に切り換える／リモコンをビデオデッキ操作モードに切り換える	［ビデオ］ ビデオデッキ操作の前に必ず行ってください。
ビデオデッキの電源を入/切する	AV機器［電源］
再生を始める	［再生 ▶］
巻き戻し/早送りをする	［◀◀］［▶▶］ スロー/サーチ
一時停止する	［一時停止 ❚❚］
チャンネルを選ぶ	（順に選ぶとき） ［チャンネル ∧∨］ （直接選ぶとき） ［1］～［12］
再生を停止する	［停止 ■］

CDプレーヤーを操作する

本機の入力を“*CD*”に切り換える/リモコンをCDプレーヤー操作モードに切り換える	［CD］ CD プレーヤー操作の前に必ず行ってください。
CDプレーヤーの電源を入/切する	AV機器［電源］
再生を始める	［再生 ▶］
トラックを飛び越す（スキップ）	［⏮］［⏭］ スキップ
聞きたい場所を探す（サーチ）	［◀◀］［▶▶］ スロー/サーチ
一時停止する	［一時停止 ❚❚］
トラックを直接選ぶ	［1］～［12］
再生を停止する	［停止 ■］

2 つ以上の当社製機器（ミニコンや AV アンプなど）をお使いの場合

2 つ以上の当社製オーディオ機器を使う場合、本機のリモコンを使用すると複数の機器が動作することがあります。
その場合は、本機のリモコンコードを“***REMOTE 2***”に切り換えてください。
この操作で、本体とリモコンのコードを同じ番号に設定します。

本体側操作

1 ［- メニュー/ ー初期設定、戻る］を約 2 秒間押したままにする

2 REMOTE 1 **を選び、決定**

3 REMOTE 2 **を選び、決定**

4 EXIT **を選び、決定**

リモコン側操作

5 外部入力 **を押す**

6 （決定）**と**［2］**を同時に約 2 秒間押したままにする**

☞ リモコンコードを「1」に戻す場合
- 本体側：上記手順 3 で“*1*”を選ぶ
- リモコン側：上記手順6で[決定]と[1]を同時に約2秒間押したままにする

主な仕様

■アンプ部

実用最大出力(サラウンドモード 各 ch 動作時)
- フロント(L/R) 100 W + 100 W (6Ω, JEITA)
- センター 100 W (6Ω, JEITA)
- サラウンド(L/R) 100 W + 100 W (6Ω, JEITA)
- サラウンドバック(L/R) 100 W + 100 W (6Ω, JEITA)

定格出力(サラウンドモード 各 ch 動作時)
- フロント(L/R) 70 W + 70 W (1 kHz 6Ω 0.3 %)
- センター 70 W (1 kHz 6Ω 0.3 %)
- サラウンド(L/R) 70 W + 70 W (1 kHz 6Ω 0.3 %)
- サラウンドバック(L/R) 70 W + 70 W (1 kHz 6Ω 0.3 %)

実用最大出力(ステレオ時) 100 W + 100 W (6Ω, JEITA)

定格出力(ステレオ時)
70 W + 70 W (20 Hz-20 kHz 6Ω 0.09 %)

出力帯域幅(ステレオ時) 4 Hz ～ 88 kHz,(6Ω, 0.9 %)

全高調波ひずみ率 20 Hz-20 kHz 定格出力 0.09 %(6Ω)

負荷インピーダンス
- フロント(L/R)
  - A または B 6 ～ 16Ω
  - A と B 6 ～ 16Ω
  - BI-WIRE 6 ～ 16Ω
- センター 6 ～ 16Ω
- サラウンド(L/R) 6 ～ 16Ω
- サラウンドバック(L/R) 6 ～ 16Ω

周波数特性
- CD、外部入力、ビデオデッキ、テレビ、DVD プレーヤー、BD/DVD レコーダー 4 Hz ～ 88 kHz, ± 3 dB
- DVD 6CH 4 Hz ～ 44 kHz, ± 3 dB

入力感度/入力インピーダンス
- CD、外部入力、ビデオデッキ、テレビ、DVD/DVD 6CH、BD/DVD レコーダー 200 mV/22 kΩ

信号対雑音比(S/N 比)
- CD、テレビ、DVD プレーヤー、BD/DVD レコーダー(DIGITAL INPUT) 103 dB

トーンコントロール特性
- 低音 50 Hz, +10 ～− 10 dB
- 高音 20 kHz, +10 ～− 10 dB

デジタル入力 (光)	2
(同軸)	2

HDMI 入力 (VER. 1.2a)	2
HDMI 出力 (VER. 1.2a)	1

■映像部

出力電圧(1 V 入力時) 1 ± 0.1 Vp-p

最大入力電圧 1.5 Vp-p

入出力インピーダンス(アンバランス) 75Ω

S ビデオ
- 入力 BD/DVD レコーダー、DVD プレーヤー、テレビ、外部入力
- 出力 テレビモニター

コンポーネントビデオ
- 入力 BD/DVD レコーダー、テレビ
- 出力 テレビモニター

■総合

電源 AC 100 V, 50/60 Hz

消費電力 240 W

寸法(幅×高さ×奥行き) 430 mm × 107.5 mm × 390 mm

質量 約 5.3 kg

電源スタンバイ時の消費電力	約 0.7 W
省待機電力モード時	約 0.3 W

注)
1. この仕様は、性能向上のため変更することがあります。
2. 全高調波ひずみ率は、スペクトラムアナライザーによる第 10 次高調波までの総和です。

「JIS C 61000-3-2 適合品」
:JIS C 61000-3-2適合品とは、日本工業規格「電磁両立性ー第 3-2 部:限度値ー高調波電流発生限度値(1 相当たりの入力電流が20A以下の機器)」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

ヘルプメッセージ

	表示	原因/対策
1	CANCEL MUTING FUNCTION	消音機能が働いています。リモコンの[消音]を押して解除してください。(➜ 29 ページ)
2	MUSIC MODE ONLY	"**MUSIC**"モード以外のモードが選択されています。"**MUSIC**"モードにしてください。(➜ 26、27 ページ)
3	NO CENTER AND SURROUND SPEAKERS	センターとサラウンドのスピーカーが接続されていないか、「無」の設定になっています。接続するか(➜ 9 ページ)、「有」の設定にしてください(➜ 33 ページ)。
4	NO SURROUND AND SURROUND BACK SPEAKERS	サラウンドとサラウンドバックのスピーカーが接続されていないか、「無」の設定になっています。接続するか(➜ 9 ページ)、「有」の設定にしてください(➜ 33 ページ)。
5	NO SURROUND BACK SPEAKER	サラウンドバックスピーカーが接続されていないか、「無」の設定になっています。接続するか(➜ 9 ページ)、「有」の設定にしてください(➜ 33 ページ)。
6	NOT POSSIBLE FOR DTS-ES SOURCE	DTS-ES には使用できない効果を使用しようとしています。
7	NOT POSSIBLE FOR DVD AUDIO SOURCE	DVD オーディオには使用できない効果を使用しようとしています。
8	NOT POSSIBLE FOR DVD 6CH INPUT	DVD アナログ 6CH には使用できない効果を使用しようとしています。
9	NOT POSSIBLE FOR THIS INPUT SOURCE	現在の入力ソースには使用できない効果を使用しようとしています。
10	PCM FIX (点滅)	PCM FIX モードになっています。解除してください。(➜ 35 ページ)
11	SELECT SPEAKER A	スピーカーA が「切」になっています。スピーカーA を選択してください。(➜ 12、24 ページ)
12	SPEAKERS ARE OFF	スピーカーの A と B が「切」になっています。どちらかのスピーカーを選択してください。(➜ 12、24、25 ページ)

- このマークがある場合は -

ヨーロッパ連合以外の国の廃棄処分に関する情報

このシンボルマークは EU 域内でのみ有効です。
製品を廃棄する場合には、最寄りの市町村窓口、または販売店で、正しい廃棄方法をお問い合わせください。

故障かな !?

修理を依頼される前に、この表で症状を確かめてください。なお、これらの処置をしても直らない場合や、この表以外の症状は、お買い上げの販売店にご相談ください。

	こんなときは	ここを確認、処置してください	ページ
共通	電源が入らない。	• 電源プラグがコンセントに正しく接続されているか、確認してください。	9
共通	機器の再生を始めても音や映像が出ない。または音がおかしい。	• スピーカー表示が消灯している場合は、スピーカー A または B を選択してください。 • 入力切換(音源)を正しく選択してください。 • 「消音」を解除してください。 • 本機で再生できるデジタル信号か確認してください。 • スピーカーや機器が正しく接続されているか確認してください。 • デジタル入力端子の設定を確認してください。 • PCM FIX モードを解除してください。 • DVD オーディオでは、著作権の関係上、デジタルで音声が出力できない場合があります。	12、24、25 12、24 29 43 7～9、14～21 35 35 —
共通	音が出なくなった。 (“***OVERLOAD***”が約 1 秒間表示される。) 本機は異常を検出すると、保護回路が働いて、電源を自動的に切ります。	• スピーカーコードの ⊕ と ⊖ がショートしていませんか。 • スピーカーインピーダンスが本機の許容範囲より低くないですか。 • 著しい大音量で聞いていませんか。 • 異常に暑い場所で使用していませんか。 ⇒原因を解消して、しばらく待ってから再び電源を入れてください。(保護回路の動作が解除されます。)(それでも同じ現象が起こる場合は販売店にご相談ください。)	8 9、20、21 — —
共通	アナログ入力で再生中、音がひずみ“***OVERFLOW***”が表示される。	• アッテネーターを「入」にしてください。	36
共通	“***F76***”が表示され、電源が切れる。	• 電源を切り、電源プラグを抜いたうえで、販売店にご相談ください。	—
共通	“***U30 REM2***”または“***U30 REM1***”が表示される。	• リモコンコードを設定し、本体とリモコンのコードを合わせてください。	40
共通	表示部が暗い。	• “***DIMMER***”(ディマー)を解除してください。	29、31
共通	再生中、カチッと音がする。	• DVDなどを再生すると、入力信号によりアドバンスドデュアルアンプ機能が自動的に切り換わります。その際、カチッと音がしますが、故障ではありません。 ⇒アドバンスドデュアルアンプを自動的に動作させない設定もできます。	— 34
測定マイク	“***MEASURING ERROR***”と表示される	• 原因が特定できないエラーが発生しました。再度、測定をやり直してください。 • スピーカーまでの距離が遠すぎます。設置場所を確かめてください。	22、23 —
測定マイク	距離の設定(→ 33 ページ)で、スピーカーに“***L 3.0 –***”のように“–”が表示される。	• 極性を自動補正したスピーカーに表示されます。 ⇒極性を自動補正しない設定もできます。	34
測定マイク	距離の設定(→ 33 ページ)で、距離が“***OVER***”と表示される。	• 距離の測定値が 15 m を超えた場合に表示されます。スピーカーの設置などを確認してください。	—
音質・音場効果	センタースピーカー、サラウンドスピーカー、サブウーハーから音が聞こえない。	• スピーカーやサブウーハーの有無、または、サイズの設定を確かめてください。 • ドルビープロロジックⅡx、NEO:6、SFC の設定を確かめ、適切なモードを選んでください。 • 2 チャンネルのステレオソースの場合は、[サラウンド] を「入」にしてください。	10、22、23、33 26 ～ 28 12、24
音質・音場効果	サラウンドバックスピーカーから音が聞こえない。	• スピーカーの有無とサイズの設定を確かめてください。 • [サラウンド] を「入」にしてください。	10、22、23、33 12、24
音質・音場効果	ドルビープロロジックⅡx や NEO:6、SFC が使えない	• センタースピーカー、サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーの接続を確認してください。 • スピーカーA を「入」にしてください。 • サンプリング周波数が 176.4 kHz、192 kHzの PCM 信号には使用できません。 • DVD アナログ 6CH を解除してください。 • BS デジタル放送の AAC 信号、ドルビーデジタル、DTS の二重音声には使用できません。	9 12、24 — 25 —
音質・音場効果	BS デジタル放送で二重音声放送の切り換えができない。	• BS デジタルチューナーの音声出力を AAC に切り換えてください。	—
音質・音場効果	SFC を使用中に音がひずんだように聞こえる。	• 入力ソースによっては、エフェクトの効果のレベルを上げると音がひずんだように聞こえることがあります。その場合は、エフェクトの効果のレベルを下げてください。	28
HDMI	“***U70-1-1***”が表示される。	• HDMI 接続した機器が、本機の著作権保護に対応していません。	—
HDMI	“***U70-1-2***”が表示される。	• HDMI 接続で、本機が対応していない映像フォーマットを受信しました。接続した機器の設定を確認してください。	—
HDMI	“***U70-3***”が表示される。	• HDMI 接続で異常があります。以下の処置をしてください。 それでも直らないときは、販売店にご相談ください。 ー接続した機器の電源を「切/入」してください。 ーHDMI ケーブルを抜き差ししてください。 ー本機出力側の接続台数が 2 台を超えないようにしてください。	— 7、13 —
HDMI	HDMI 接続で、始めの数秒間の音声が再生されない。	• DVD をチャプターから再生した場合に、起こることがあります。以下の処置をしてください。 ーDVD レコーダーまたは DVD プレーヤーのデジタル音声出力の設定をビットストリーム設定から PCM 設定にしてください。(ただし、6.1 チャンネルソースは 5.1 チャンネルで再生されます。) ー2チャンネルソースの場合は、さらに**「入力信号の設定をする」**で“***PCMFIX***”にしてください。	— 35
HDMI	正常に動作しない。	• HDMI の入力端子と出力端子を間違えて接続すると、正常に動作しません。 接続し直すときは、一度電源を切り、電源プラグを抜いてから接続してください。	7、13
HDMI	VIERA Link (HDAVI Control)が正しく動作しない。	• テレビ(VIERA)を HDMI ケーブルで接続してテレビの電源を入れ、そのまま本機の電源プラグを一旦抜いてから挿し直してください。	—
HDMI	HDMI の(DVD プレーヤー)入力端子に接続した機器の電源が、操作をしていないのに「入 / 切」する。	• VIERA Link 対応機器の場合、一部の連動操作が働きます。機能を働かせたくない場合は、接続した機器(DVD レコーダー(DIGA)など)側で VIERA Link 機能を働かせない設定にしてください。	—
リモコン	リモコンが働かない。	• 電池が消耗している場合は電池を交換してください。	5
リモコン	他のオーディオ機器が動作する。	• 本機のリモコンコードを“***REMOTE 2***”に切り換えてください。	40

お手入れ

■**本機が汚れたら**

柔らかい布でふいてください。
ひどい汚れは、薄めた台所用洗剤(中性)を含ませた布でふき、後はからぶきしてください。

アルコールやシンナーは使わないでください。
化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書にしたがってください。

Q&A(よくあるご質問)

Q(質問)	A(回答)
カラオケ用マイクを接続したい。	本機ではカラオケ用マイクは使用できません。 測定用マイク端子に接続しないでください。
DVD プレーヤーにマイクを接続してカラオケを楽しもうとしたが、マイクの音が出ない。	DVD プレーヤーと本機をデジタル接続している場合はマイクの音は出力されません。アナログ接続して、アナログ入力にしてください。(➜ 18、35 ページ)
DTS の音声が出ない。 音声は出るが DTS 表示が点灯しない。	DVD レコーダーまたは DVD プレーヤーのデジタル音声出力の設定が、ビットストリーム出力であることを確かめてください。
デジタル接続で、DVD オーディオを再生しても音が出ない。	本機は CPPM に対応していますので、HDMI ケーブルで接続すると、DVD オーディオの音声を楽しむことができます。(➜ 7、13 ページ)
長時間使用すると、本体が熱くなるが、大丈夫か。	大丈夫です。ただし、本体上部や側面の放熱孔を物でふさぐなど、放熱を妨げることはしないでください。
引っ越しするのだが、そのまま使えるか。	東日本、西日本に関係なく使えます。

音声と本機のしくみ

本機で再生できるデジタル信号

信号	説明	主なソース
AAC(エーエーシー)	BS デジタル放送などに採用されている圧縮音声です。 サラウンド音声を再生できます。	BS デジタル放送など
Dolby Digital(Dolby Digital Surround EX も含む)(ドルビー デジタル(ドルビー デジタル サラウンド イーエックス も含む))	ドルビー研究所が開発したデジタルサラウンドシステムです。 Dolby Digital Surround EX では、従来の 5.1 チャンネル方式に加え、サラウンドバックチャンネルを用いることで、さらに臨場感のある音場を作り出します。	DVD など
DTS(DTS-ES、DTS 96/24 も含む)(ディーティーエス(ディーティーエス イーエス、ディーティーエス))	DTS 社が開発したデジタルサラウンドシステムです。 DTS-ES では、従来の 5.1 チャンネル方式に加え、サラウンドバックチャンネルを用いることで、さらに臨場感のある音場を作り出します。DTS 96/24では、96 kHz / 24 bit の高音質な音声をサラウンドで再生します。	DVD など
PCM(ピーシーエム)	本機では、同軸 1 デジタル入力端子は 192 kHzまで、その他のデジタル入力端子は 96 kHz まで再生できます。 88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz の周波数を持つ信号が入力されると、その周波数が表示部に出ます。	CD や DVD オーディオ など

音声信号のディスプレイ表示

2CH MIX / スピーカー / BI-WIRE A B / PCM / cm / kHz / デジタル入力 / DTS 96/24 DTS-ES AAC / DD DIGITAL EX DD EX / DD PL II x NEO:6 SFC

DD DIGITAL: ドルビーデジタルデコーダーが動作しているとき

DD DIGITAL EX: ドルビーデジタルの 5.1 チャンネルやドルビーデジタルサラウンド EX にドルビーデジタル EX デコーダー(ドルビープロロジックIIx デコーダー)が動作しているとき(サラウンドバックスピーカーを 1 本接続している場合のみ表示)

DD EX: DTS や AAC の 5.1 チャンネルにドルビーデジタルEXデコーダー(ドルビープロロジックIIx デコーダー)が動作しているとき(サラウンドバックスピーカーを 1 本接続している場合のみ表示)

DD PL IIx: ドルビープロロジックIIx デコーダーを使用しているとき

AAC: AAC デコーダーが動作しているとき

DD PL II: サラウンドバックスピーカーが「無」の場合に、2 チャンネルのステレオソースにドルビープロロジック IIx を使用すると表示されます。(ドルビープロロジックII デコーダーを使用しています)

DTS: DTS デコーダーが動作しているとき

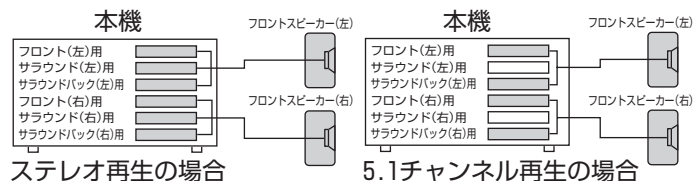
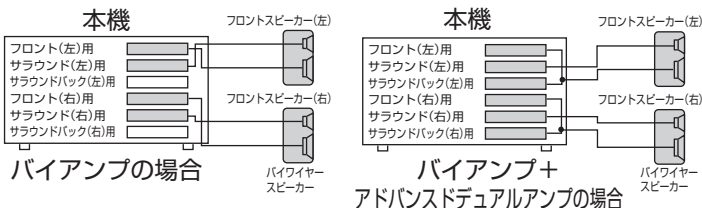
DTS 96/24: DTS 96/24 デコーダーが動作しているとき

DTS-ES: DTS-ES ディスクリートデコーダーやマトリックスデコーダーが動作しているとき

NEO:6: DTS NEO:6 マトリックスデコーダーを使用しているとき

SFC: SFC 機能を使用しているとき

アドバンスドデュアルアンプとバイアンプ(➜25 ページ)で使用するアンプ

■ アドバンスドデュアルアンプ

■ バイアンプ

安全上のご注意（必ずお守りください）

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。（下記は、絵表示の一例です。）

	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

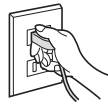
警告

電源コード・プラグを破損するようなことはしない

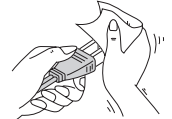
（傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重い物を載せたり、束ねたりしない）

傷んだまま使用すると、火災・感電・ショートの原因になります。

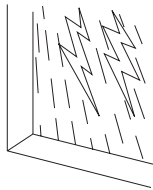
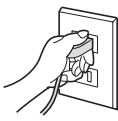
- ●抜くときは、プラグを持ち、まっすぐ抜いてください。
- ●コードやプラグの修理は、販売店にご相談ください。

電源プラグは根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。

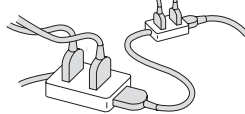
- ●傷んだプラグ・ゆるんだコンセントは、使わないでください。

電源プラグのほこり等は定期的にとる

プラグにほこり等がたまると、湿気等で絶縁不良となり、火災の原因になります。

- ●電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。

雷が鳴ったら、本機や電源プラグに触れない

接触禁止

感電の原因になります。

コンセントや配線器具の定格を超える使いかたや、交流100 V以外での使用はしない

たこ足配線等で、定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

ぬれた手で、電源プラグの抜き差しはしない

ぬれ手禁止

感電の原因になります。

内部に金属物を入れたり、水などの液体をかけたりぬらしたりしない

ショートや発熱により、火災・感電の原因になります。

- ●機器の上に水などの液体の入った容器や金属物を置かないでください。
- ●特にお子様にはご注意ください。

異常があったときは、電源プラグを抜く

電源プラグを抜く

- ・内部に金属や水などの液体、異物が入ったとき
- ・落下などで外装ケースが破損したとき
- ・煙や異臭、異音が出たとき

そのまま使うと、火災・感電の原因になります。

- ●販売店にご相談ください。

分解、改造をしない

分解禁止

内部には電圧の高い部分があり、感電の原因になります。

- ●内部の点検や修理は、販売店にご依頼ください。

⚠警告

電池は誤った使いかたをしない

- 乾電池は充電しない
- 加熱・分解したり、水などの液体や火の中へ入れたりしない
- ⊕と⊖を針金などで接続しない
- 金属製のネックレスやヘアピンなどといっしょに持ち運んだり、保管しない
- ⊕と⊖を逆に入れない
- 新・旧電池や違う種類の電池をいっしょに使わない
- 被覆のはがれた電池は使わない
- 乾電池の代用として充電式電池を使わない。

●取り扱いを誤ると、液もれ・発熱・発火・破裂などを起こし、火災や周囲汚損の原因になります。
●電池には安全のために被覆をかぶせています。
これをはがすとショートの原因になりますので、絶対にはがさないでください。

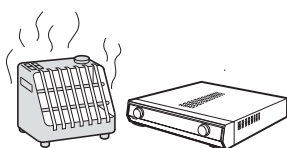
電池の液がもれたときは、素手で液をさわらず、以下の処置をする

- 液が目に入ったときは、失明の恐れがあります。目をこすらずに、すぐにきれいな水で洗ったあと、医師にご相談ください。
- 液が身体や衣服に付いたときは、皮膚の炎症やけがの原因になるので、きれいな水で十分に洗い流したあと、医師にご相談ください。

使い切った電池は、すぐに機器から取り出す

そのまま機器の中に放置すると、電池の液もれや、発熱、破裂の原因になります。

⚠注意

異常に温度が高くなるところに置かない

外装ケースや内部部品が劣化するほか、火災の原因になることがあります。
●直射日光の当たるところ、ストーブの近くでは特にご注意ください。

放熱を妨げない

内部に熱がこもると、外装ケースが変形したり、火災の原因になることがあります。
●通風孔をふさがないでください。

油煙や湯気の当たるところ、湿気やほこりの多いところに置かない

電気が油や水分、ほこりを伝わり、火災・感電の原因になることがあります。
たばこの煙なども製品の故障の原因になることがあります。

不安定な場所に設置しない

- 上に大きなもの、重いものを載せない

機器が落ちたり、倒れたりして、けがの原因になることがあります。

長期間使わないときは、リモコンから電池を取り出す

電池の液もれ・発熱・発火・破裂などを起こし、火災や周囲汚損の原因になることがあります。

コードを接続した状態で移動しない

接続した状態で移動させようとすると、コードが傷つき、火災・感電の原因になることがあります。
また、引っかかって、けがの原因になることがあります。

ヘッドホン使用時は、音量を上げすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聴くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

長期間使わないときや、お手入れのときは、電源プラグを抜く

電源プラグを抜く

通電状態で放置、保管すると、絶縁劣化、ろう電などにより、火災の原因になることがあります。

保証とアフターサービス（よくお読みください）

修理・お取り扱い・お手入れ
などのご相談は…
まず、お買い上げの販売店へ
お申し付けください

転居や贈答品などでお困りの場合は・・・

●修理は、サービス会社・販売会社の「修理ご相談窓口」へ！
●使いかた、お買い物などのお問い合わせは、「お客様ご相談センター」へ！

■保証書（別添付）

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い上げの販売店からお受け取りください。よくお読みのあと、保存してください。

保証期間：お買い上げ日から本体１年間

■補修用性能部品の保有期間

当社は、このＡＶコントロールアンプの補修用性能部品を、製造打ち切り後８年保有しています。
注）補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

■修理を依頼されるとき

42ページの表に従ってご確認のあと、直らないときは、まず電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店へご連絡ください。

●保証期間中は
保証書の規定に従って、出張修理をさせていただきます。

●保証期間を過ぎているときは
修理すれば使用できる製品については、ご要望により修理させていただきます。右記修理料金の仕組みをご参照のうえご相談ください。

●修理料金の仕組み
修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

技術料は、診断・故障箇所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。

部品代は、修理に使用した部品および補助材料代です。

出張料は、製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

ご相談窓口における個人情報のお取り扱い

松下電器産業株式会社およびその関係会社は、お客様の個人情報やご相談内容を、ご相談への対応や修理、その確認などのために利用し、その記録を残すことがあります。また、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に提供しません。お問い合わせは、ご相談された窓口にご連絡ください。

ご連絡いただきたい内容			
製品名	ＡＶコントロールアンプ	お買い上げ日	年　月　日
品　番	ＳＵ-ＸＲ７００	故障の状況	できるだけ具体的に

「よくあるご質問」「メールでのお問い合わせ」などはホームページをご活用ください。
http://panasonic.jp/support/

修理に関するご相談

ナショナル パナソニック　修理ご相談窓口

ナビダイヤル（全国共通番号）　**0570-087-087**

- 呼出音の前にNTTより通話料金の目安をお知らせします。
- 携帯電話・PHS等からは最寄りの修理ご相談窓口に直接おかけください。
- 最寄りの修理ご相談窓口は、次ページをご覧ください。

使いかた・お買い物などのご相談

ナショナル パナソニック　お客様ご相談センター

365日／受付9時〜20時

電話　フリーダイヤル　**0120-878-365**（パナは365日）

■携帯電話・PHSでのご利用は…　**06-6907-1187**

FAX　フリーダイヤル　**0120-878-236**

Help desk for foreign residents in Japan
Tokyo (03) 3256-5444　**Osaka** (06) 6645-8787
Open : 9:00 - 17:30 (closed on Saturdays/Sundays/national holidays)

※電話番号をよくお確かめの上、おかけください。

ナショナル パナソニック

修理ご相談窓口

ナビダイヤル（全国共通番号） 0570-087-087

- 呼出音の前にNTTより通話料金の目安をお知らせします。
- 携帯電話・PHS等からは最寄りの修理ご相談窓口に直接おかけください。

北海道地区

地域	所在地	電話番号
札幌	札幌市厚別区厚別南2丁目17-7	☎(011)894-1251
旭川	旭川市2条通16丁目1166	☎(0166)22-3011
帯広	帯広市西20条北2丁目23-3	☎(0155)33-8477
函館	函館市西桔梗589番地241（函館流通卸センター内）	☎(0138)48-6631

東北地区

地域	所在地	電話番号
青森	青森市大字浜田字豊田364	☎(017)775-0326
秋田	秋田市東通り2丁目1-7	☎(018)831-7833
岩手	盛岡市厨川5丁目1-43	☎(019)645-6130
宮城	仙台市宮城野区扇町7-4-18	☎(022)387-1117
山形	山形市平清水1丁目1-75	☎(023)641-8100
福島	郡山市亀田1丁目51-15	☎(024)991-9308

首都圏地区

地域	所在地	電話番号
栃木	宇都宮市上戸祭3丁目3-19	☎(028)689-2555
群馬	前橋市箱田町325-1	☎(027)254-2075
茨城	つくば市筑穂3丁目15-3	☎(029)864-8756
埼玉	桶川市赤堀2丁目4-2	☎(048)728-8960
千葉	千葉市中央区末広5丁目9-5	☎(043)208-6034
東京	東京都世田谷区宮坂2丁目26-17	☎(03)5477-9780
山梨	甲府市宝1丁目4-13	☎(055)222-5171
神奈川	横浜市港南区日野5丁目3-16	☎(045)847-9720
新潟	新潟市東明1丁目8-14	☎(025)286-0171

中部地区

地域	所在地	電話番号
石川	金沢市横川3丁目20	☎(076)280-6608
富山	富山市根塚町1丁目1-4	☎(076)424-2549
福井	福井市問屋町2丁目14	☎(0776)25-5001
長野	松本市寿北7丁目3-11	☎(0263)86-9209
静岡	静岡市駿河区有東2丁目3-22	☎(054)287-9000
愛知	名古屋市瑞穂区塩入町8-10	☎(052)819-0225
岐阜	岐阜市中鶉4丁目42	☎(058)278-6720
高山	高山市花岡町3丁目82	☎(0577)33-0613
三重	津市久居野村町字山神421	☎(059)255-1380

近畿地区

地域	所在地	電話番号
滋賀	栗東市霊仙寺1丁目1-48	☎(077)582-5021
京都	京都市伏見区竹田中川原町71-4	☎(075)672-9636
大阪	大阪市北区本庄西1丁目1-7	☎(06)6359-6225
奈良	大和郡山市筒井町800番地	☎(0743)59-2770
和歌山	和歌山市中島499-1	☎(073)475-2984
兵庫	神戸市中央区琴ノ緒町3丁目2-6	☎(078)272-6645

中国地区

地域	所在地	電話番号
鳥取	鳥取市安長295-1	☎(0857)26-9695
米子	米子市米原4丁目2-33	☎(0859)34-2129
松江	松江市平成町182番地14	☎(0852)23-1128
出雲	出雲市渡橋町416	☎(0853)21-3133
浜田	浜田市下府町327-93	☎(0855)22-6629
岡山	岡山市田中138-110	☎(086)242-6236
広島	広島市西区南観音8丁目13-20	☎(082)295-5011
山口	山口県吉敷郡小郡町下郷220-1	☎(083)973-2720

四国地区

地域	所在地	電話番号
香川	高松市勅使町152-2	☎(087)868-6388
徳島	徳島市沖浜2丁目36	☎(088)624-0253
高知	高知市仲田町2-16	☎(088)834-3142
愛媛	愛媛県伊予郡砥部町八倉75-1	☎(089)905-7544

九州地区

地域	所在地	電話番号
福岡	春日市春日公園3丁目48	☎(092)593-9036
佐賀	佐賀市鍋島町大字八戸字上深町3044	☎(0952)26-9151
長崎	長崎市東町1949-1	☎(095)830-1658
大分	大分市萩原4丁目8-35	☎(097)556-3815
宮崎	宮崎市本郷北方字草葉2099-2	☎(0985)63-1213
熊本	熊本市健軍本町12-3	☎(096)367-6067
天草	本渡市港町18-11	☎(0969)22-3125
鹿児島	鹿児島市与次郎1丁目5-33	☎(099)250-5657
大島	名瀬市長浜町10-1	☎(0997)53-5101

沖縄地区

地域	所在地	電話番号
沖縄	浦添市城間4丁目23-11	☎(098)877-1207

所在地、電話番号が変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。

0506

さくいん

愛情点検 長年ご使用のＡＶコントロールアンプの点検を！

こんな症状はありませんか	・煙が出たり、異常なにおいや音がする ・音が出ないことがある ・正常に動作しないことがある ・商品に破損した部分がある ・その他の異常や故障がある	▶	このような症状の時は、使用を中止し、故障や事故の防止のために、必ず販売店に点検をご相談ください。

便利メモ （おぼえのため、記入されると便利です）

販売店名	☎（　　　）　　ー	品番	SU-XR700
お客様 ご相談窓口	☎（　　　）　　ー	お買い上げ日	年　月　日

松下電器産業株式会社 ネットワーク事業グループ

〒 571- 8504 大阪府門真市松生町 1 番 15 号

RQT8744-2S
H0706RT2086